官營共濟組合比較表

大正14年3月現在

鐵道大臣官房 保健課編

国立国会図書館

V5E98

官營共濟組合比較表

附錄 國有鐵道共濟組合、健康保險法給付比較表
工場法(施行令)傭人扶助令、恩給法

(大正十四年三月現在)

鐵道大臣官房保健課

YQ2
1047

國立國會
57.1.30
圖書館藏書

82W04900

YQ2
1047

例　言

一、本表ニ記載セル共濟組合ハ下記官營共濟組合トス、本表以外ノ官營共濟組合並民間會社ノ施設ニ係ル共濟組合ノ比較表ハ之ヲ他日ニ讓ル

國有鐵道共濟組合、海軍共濟組合、遞信部內職員共濟組合、專賣局現業員共濟組合、製鐵所共濟組合、造幣局共濟組合、林野現業員共濟組合印刷局共濟組合、土木事業從事員共濟組合、警察共濟組合、陸軍共濟組合、臺灣總督府鐵道職員共濟組合、臺灣總督府遞信局及通信官署職員共濟組合、樺太廳鐵道事務所及郵便局現業員共濟組合

二、本表比較ノ各共濟組合規則ハ大正十四年三月現在ノモノトス

三、附錄トシテ、國有鐵道共濟組合規則、健康保險法、恩給法、工場法（施行令）傭人扶助令ノ給付比較表ヲ揭載セリ

大正十四年五月　　鐵道大臣官房保健課

官營共濟組

組合別 / 種別	國有鐵道共濟組合	海軍共濟組合	遞信部内職員共濟組合	專賣局現業員共濟組合	製鐵所共濟組合	造幣局共濟組合	林野現業員共濟組合
關係法規	一. 明治四十年四月勅令第百二十七號 改正中畧 改正大正九年五月勅令第百五十四號 二. 大正九年三月勅令第八十號 三. 明治四十年四月公達第三百十五號 改正中畧 大正七年二月公達第一號 改正中畧 大正九年四月公達第一號 改正大正十一年十月達第八百二十六號 改正大正十三年十月達第七百六十二號	一. 明治四十五年三月勅令第十八號 改正大正十一年三月勅令第六十號 二. 大正九年三月勅令第八十號 三. 明治四十五年三月省令第二號 改正中略 改正大正十二年四月省令第八號	一. 明治四十二年五月勅令第百五十一號 改正大正九年十月勅令第四百六十七號 二. 大正九年三月勅令第八十號 三. 明治四十二年六月省令第二十三號 改正中畧 改正大正十三年十月省令第四十四號	一. 明治四十一年六月勅令第百五十七號 改正大正九年四月勅令第八十一號 二. 明治四十一年七月省令第三十五號 改正中略 改正大正九年四月省令第十六號	一. 大正十一年十一月勅令第四百九十五號 二. 大正九年三月勅令第八十號 三. 大正十一年十一月省令第二十一號 改正大正十二年六月省令第十三號	一. 大正十二年一月勅令第十九號 二. 大正九年四月勅令第八十號 三. 大正十二年一月省令第三號	一. 大正八年六月勅令第三百六號 改正大正九年十二月勅令第五百七十八號 二. 大正八年六月省令第二十五號 改正大正十二年五月省令第十號
政府給與金	給料總額百分ノ五 一. 每年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員給料總額百分ノ二ニ當ル金額ヲ限度トス 二. 退職年金. 癈疾年金ノ給付ヲ爲ストキハ每年豫算ノ範圍内ニ於テ給料總額ノ百分ノ三ニ當ル金額ヲ限度トス 三. 右一. 二ノ給料總額中ニハ判任現業員及非現業員ノ俸給給料ヲ包含セズ	給料總額百分ノ四. 五 一. 每年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員給料總額百分ノ二ニ當ル金額ヲ限度トス 二. 退職年金. 癈疾年金ノ給付ヲ爲ストキハ每年豫算ノ範圍内ニ於テ給料總額ノ百分ノ三ニ當ル金額ヲ限度トス 三. 右一. 二ノ給料總額中ニハ判任現業員及非現業員ノ俸給給料ヲ包含セズ	給料總額百分ノ四. 四 一. 每年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員給料總額千分ノ二十四ヲ限度トス 二. 退職年金. 癈疾年金ノ給付ヲ爲ストキハ每年豫算ノ範圍内ニ於テ給料總額ノ百分ノ三ニ當ル金額ヲ限度トス 三. 右一. 二ノ給料總額中ニハ判任現業員及非現業員ノ俸給給料ヲ包含セズ	給料總額百分ノ二 一. 每年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員給料總額百分ノ二ニ當ル金額ヲ限度トス	給料總額百分ノ五 一. 每年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員給料總額百分ノ二ニ當ル金額ヲ限度トス 二. 退職年金. 癈疾年金ノ給付ヲ爲ストキハ每年豫算ノ範圍内ニ於テ給料總額ノ百分ノ三ニ當ル金額ヲ限度トス 三. 右一. 二ノ給料總額中ニハ判任現業員及非現業員ノ俸給給料ヲ包含セズ	給料總額百分ノ五 一. 每年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員給料總額百分ノ二ニ當ル金額ヲ限度トス 二. 退職年金. 癈疾年金ノ給付ヲ爲ストキハ每年豫算ノ範圍内ニ於テ給料總額ノ百分ノ三ニ當ル金額ヲ限度トス 三. 右一. 二ノ給料總額中ニハ判任現業員及非現業員ノ俸給給料ヲ包含セズ	給料總額百分ノ二 一. 每年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員給料總額百分ノ二ニ當ル金額ヲ限度トス
掛金	一. 給料月額百分ノ六（甲種） 二. 給料月額百分ノ十一（乙種） 給料月額百分ノ七（乙種選擇）	一. 給料月額千分ノ五十四（男子） 二. 給料月額千分ノ二十七（女子）	一. 給料月額千分ノ五十六（甲種） 二. 給料月額千分ノ百（乙種）	一. 給料月額千分ノ三十（現業） 二. 給料月額千分ノ五十（非現業）	一. 給料月額百分ノ五. 五（甲種） 二. 給料月額百分ノ十（乙種） 給料月額百分ノ八（乙種選擇）	一. 給料月額百分ノ五（甲種） 二. 給料月額百分ノ九（乙種）	一. 給料月額千分ノ三十（現業） 二. 給料月額千分ノ四十三（非現業）
審査會及評議會	審査會 一. 加入. 脫退. 給付ニ干スル處分ニ對スル異議者ハ其通知ヲ受ケタル日ヨリ廿日内ニ大臣ニ審査會ノ審査ヲ求ムルコトヲ得 二. 審査會ハ議長一名審査員十名ヲ以テ組織ス議長ハ鐵道次官委員ハ省高等官ヲ以テ之ニ充ツ 三. 議決方法. 委員半數以上出席シ出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ採決ニ據ル 四. 審査會ノ決議不當ト認ムルトキハ大臣ハ再審査ヲ命ズルコトヲ得 評議會 ナシ 共濟組合以外ニ現業委員會ノ制度アリ	審査會 一. 加入. 脫退. 救濟金額決定其他給與ニ干スル處分ノ異議者ハ其通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日内ニ大臣ニ審査ヲ求ムルコトヲ得 二. 審査會ハ議長一名委員十名ヲ以テ組織ス議長及委員ハ大臣之ヲ指定ス 三. 議決方法. 委員半數以上出席. 出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス 四. 審査會ノ決議ハ組合員ヲ羈束ス 評議會 ナシ	審査會 一. 加入. 脫退. 救濟金額決定其他給與ニ干スル處分ノ異議者ハ其通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日内ニ大臣ニ審査ヲ求ムルコトヲ得 二. 審査會ハ議長一名委員十名ヲ以テ組織ス議長及委員ハ大臣之ヲ指定ス 三. 議決方法. 委員半數以上出席. 出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス 四. 審査會ノ決議不當ト認ムルトキハ大臣ハ再審査ヲ命ズ 評議會 ナシ	審査會 一. 加入. 脫退. 救濟金ノ決定其他給與ニ干スル處分ノ異議者ハ其處分ヲ受ケタル日ヨリ三十日内ニ長官ニ其審査ヲ求ムルコトヲ得 二. 審査會ハ議長一名委員六名ヲ以テ組織ス議長ハ長官委員ハ局高等官ヲ以テ之ニ充ツ 三. 議決方法. 委員半數以上出席. 出席員ノ過半數ヲ以テ決ス. 可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス 評議會 ナシ	審査會 一. 加入. 脫退. 掛金又ハ給付ニ干スル處分ノ異議者ハ其通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日内ニ長官ニ其審査ヲ求ムルコトヲ得 二. 審査會ハ議長一名審査員十名ヲ以テ組織ス議長及審査員ハ所高等官ヲ以テ之ニ充ツ 三. 議決方法. 審査員半數以上出席シ出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス 評議會 一. 長官ノ諮問ニ對シ答申シ又ハ其意見ヲ開陳スルコトヲ得 二. 議長一名. 評議員三十名内ヲ以テ之ヲ組織ス議長所庶務部長. 評議員組合ヨリ選出又ハ指定ス	審査會 一. 加入. 脫退. 救濟金ノ給與ニ干スル處分ノ異議者ハ其通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日内ニ局長ニ其審査ヲ求ムルコトヲ得 二. 審査會ハ局長及委員八名ヲ以テ組織ス委員ハ局高等官判任官ヲ以テ之ニ充ツ 三. 議決方法. 委員半數以上出席シ出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス 四. 審査會ノ決議ニ對シテハ異議申立不能トス 評議會 一. 局長ノ諮問ニ應シ局長ニ對シ意見ヲ開陳ス 二. 造幣局各部局長及組合員ノ互選シタル者八名ヲ以テ組織ス	審査會 一. 加入. 脫退. 救濟金額ノ決定其他給與ニ干スル處分ノ異議者ハ其通知ヲ受ケタル日ヨリ六十日内ニ審査ヲ求ムルコトヲ得 二. 審査會ハ會長一人委員十人ヲ以テ組織ス會長ハ次官. 委員ハ省高等官ヲ以テ之ニ充ツ 三. 議決方法. 委員半數以上出席シ出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ會長之ヲ決ス 評議會 ナシ
附屬事業	組合ハ其附屬事業トシテ組合員ノ保護救濟ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得 一. 購買部 生計ニ必要ナル物品ヲ供給スルヲ目的トス 二. 貯金部 貯蓄奬勵ヲ以テ目的トス 三. 貸付部 不慮ノ災危ニ因リ生計上ノ窮迫ヲ受ケタル場合ニ於テ低利貸付ヲ爲スヲ目的トス	組合ハ組合員及其ノ家族ノ診療ニハ應スル爲又ハ其情態ヲ救濟シ若ハ其福祉ヲ增進スル爲必要ナル相當設備ヲ爲スヲ得 一. 購買所 生計ニ必要ナル物品ノ購買及之カ配給ヲ目的トス 二. 病院 組合員及其家族ノ診療ヲ目的トス	組合ハ其附屬事業トシテ組合員ノ保護救濟ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得 一. 診察所 組合員ノ傷病ノ診察治療ヲ爲スヲ目的トス支障ナキ場合. 組合員ノ家族並組合員外ノ職員及家族ノ診療ヲ爲スコトヲ得 二. 積立金貸付 積立金ノ貸付ヲ爲スコトヲ得	組合ハ組合員ノ利益ノ爲ニ必要ト認メタル事業ニ對シ組合財産ノ一部ヲ運用スルコトヲ得	組合員ハ其附屬事業トシテ組合員ノ保護救濟ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得 一. 購買部 生計ニ必要ナル物品ノ生産購買及分配ヲ爲シ其他組合員ノ生計上ノ便益ヲ計ルヲ目的トス 二. 貯金部 貯金ヲ奬勵シ勤儉貯蓄ノ實ヲ擧ケシムルヲ目的トス	組合ハ大臣ノ認可ヲ受ケ組合員ノ保護救濟ノ爲ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得	

組

現業員
組合

年六月勅令第三
九年十二月勅令第五百
年六月省令第二
十二年五月省令第十號

分ノ二
範圍内ニ於テ組合員
分ノ二ニ當ル金額ヲ

額千分ノ三十
（現業）
額千分ノ四十三
（非現業）

救濟金額ノ決定其他
ル處分ノ異議者ハ其
タル日ヨリ六十日内
ムルコトヲ得
長一人委員十人ヲ以
長ハ次官．委員ハ省
テ之ニ充ツ
委員半數以上出席シ
半數ヲ以テ決ス可否
キハ會長之ヲ決ス

シ

合比較表（其一）（大正十四年三月現在）

印刷局共濟組合	土木事業從事員共濟組合	警察共濟組合	陸軍共濟組合	臺灣鐵道職員共濟組合	臺灣遞信局及通信官署職員共濟組合	樺太廳鐵道及郵便局現業員共濟組合	備考
一．明治四十二年三月勅令第二十二號 二．大正九年三月勅令第八十號 三．明治四十二年三月制定達號不明 大正十年印刷局長達甲第九號	一．大正十二年七月勅令第三百三十二號 二．大正九年三月勅令第八十號 三．大正十二年七月省令第二十一號	一．大正九年三月勅令第四十四號 二．大正九年七月省令第二十一號 改正大正十二年九月省令第三十號	一．大正八年四月勅令第八十號 二．大正八年四月省令第五號 改正大正十三年六月省令第二十一號	一．明治四十二年三月勅令第四十九號 二．大正九年三月勅令第八十號 三．明治四十二年三月府令第三十二號 改正中略 改正大正十年十一月府令第百六十四號	一．大正二年九月勅令第二百七十九號 二．大正九年三月勅令第八十號 三．大正二年府令第八十八號 改正大正十年十月府令第百六十一號	一．大正八年七月勅令第三百六十一號 二．大正八年十月廳令第三十三號 改正大正十年十月廳令第三十九號	改正法規ハ最近ノモノ一ヲノミ記載セリ
給料總額百分ノ五 一．毎年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員給料總額百分ノ二ニ當ル金額ヲ限度トス 二．退職年金．癈疾年金ノ給付ヲ爲ストキハ毎年豫算ノ範圍内ニ於テ給料總額ノ百分ノ三ニ當ル金額ヲ限度トス 三．右一．二ノ給料總額中ニハ判任現業員及非現業員ノ俸給給料ヲ包含セズ	給料總額百分ノ五 一．毎年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員給料總額百分ノ二ニ當ル金額ヲ限度トス 二．退職年金．癈疾年金ノ給付ヲ爲ストキハ毎年豫算ノ範圍内ニ於テ給料總額ノ百分ノ三ニ當ル金額ヲ限度トス 三．右一．二ノ給料總額中ニハ判任現業員及非現業員ノ俸給給料ヲ包含セズ	給料總額百分ノ二 北海道地方費及府縣ハ各其廳府縣所屬ノ組合員俸給總額ノ百分ノ二ニ當ル金額ヲ給與ス	給料總額百分ノ二 毎年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員ノ給料總額百分ノ二ニ當ル金額ヲ限度トス	給料總額百分ノ五 一．毎年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員給料總額百分ノ二ニ當ル金額ヲ限度トス 二．退職年金．癈疾年金ノ給付ヲ爲ストキハ毎年豫算ノ範圍内ニ於テ給料總額ノ百分ノ三ニ當ル金額ヲ限度トス 三．右一．二ノ給料總額中ニハ判任現業員及非現業員ノ俸給給料ヲ包含セズ	給料總額百分ノ四．四 一．毎年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員給料總額百分ノ二ニ當ル金額ヲ限度トス 二．退職年金．癈疾年金ノ給付ヲ爲ストキハ毎年豫算ノ範圍内ニ於テ給料總額ノ百分ノ三ニ當ル金額ヲ限度トス 三．右一．二ノ給料總額中ニハ判任現業員及非現業員ノ俸給給料ヲ包含セズ	給料總額百分ノ二 一．毎年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員給料總額ノ百分ノ二ニ當ル金額ヲ限度トス 二．右給料總額中ニハ判任現業員及非現業員ノ俸給給料ヲ包含セズ	
一．給料月額百分ノ五（甲種） 二．給料月額百分ノ九（乙種）	一．給料月額百分ノ五（甲種） 二．給料月額百分ノ九（乙種） 給料月額百分ノ七．五（乙種選擇）	一．月俸百分ノ二	一．給料月額百分ノ三	一．給料月額百分ノ六（甲種） 二．給料月額百分ノ十一（乙種） 給料月額百分ノ七（乙種選擇）	一．給料月額千分ノ五十六（甲種） 二．給料月額千分ノ百（乙種）	一．給料月額百分ノ三（甲種） 二．給料月額百分ノ五（乙種）	
審議會 一．加入．脱退．給與金ノ決定其他給與ニ干スル處分ノ異議者ハ其處分ヲ受ケタル日ヨリ三十日内ニ局長ニ其審査ヲ求ムルコトヲ得 二．審議會ハ議長一名審議員六名ヲ以テ組織ス議長及議員ハ局長之ヲ指定ス 評議會 一．組合規則ノ改正會計ノ報告其他組合ノ利害ニ干シテ議定ヲ要スルトキ之ヲ開ク 二．局長．部長及局長ノ指定シタル十名以上ノ局員ヲ以テ組織ス	審査會 一．加入．脱退．救濟金額決定其他給與ニ干スル處分ノ異議者ハ其通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日内ニ内務次官ニ其審査ヲ求ムルコトヲ得 二．審査會ハ會長及委員十名内ヲ以テ組織ス會長内務次官．委員省高等官及判任官ヲ以テ之ニ充ツ 三．議決方法．委員半數以上出席シ出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ會長之ヲ決ス 四．審査會ノ決議ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ズ 評議會　ナシ	審査會 一．救濟金ノ給與ニ干シ處分ヲ受ケタル者其處分ニ對スル異議者ハ其通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日内ニ大臣ニ其審査ヲ請求スルコトヲ得 二．審査會ハ議長一名委員十名以内ヲ以テ組織ス議長及委員ハ省高等官ヲ以テ之ニ充ツ 三．議決方法．委員半數以上出席シ出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキ議長之ヲ決ス 四．大臣ハ審査會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ再審査ヲ命ズ 評議會　ナシ	審査會 一．救濟金ノ給與ニ干スル處分ニ對スル異議者ハ其處分ヲ受ケタル日ヨリ三十日内ニ大臣ニ其審査ヲ請求スルコトヲ得 二．審査會ハ議長一名委員六名ヲ以テ組織ス．議長．委員ハ所屬高等官ヲ以テ之ニ充ツ 評議會 一．組合員ノ意見ヲ開陳セシムル爲各廳ニ評議會ヲ置ク 二．廳長指定シタル會長一名組合員ノ互選ニ依ル五名以上ノ評議員ヲ以テ組織ス	審査會 一．加入．脱退．給付ニ干スル處分ニ對スル異議者ハ其通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日内ニ總督ニ其審査ヲ求ムルコトヲ得 二．審査會ハ議長一名委員六名ヲ以テ組織ス議長及委員三名ハ府高等官其他部内高等官ヲ以テ之ニ充ツ 三．審査會決議．委員半數以上出席シ出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス 四．總督ハ會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ再審査ヲ命ズ 評議會　ナシ	審査會 一．加入．脱退．救濟金額決定其他給與ニ干スル處分ニ對スル異議者ハ其通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日内ニ總督ニ審査ヲ求ムルヲ得 二．審査會ハ議長一名．委員六名ヲ以テ組織ス議長委員府高等官ヲ以テ之ニ充ツ 三．議決方法．委員半數以上出席シ出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス 四．總督ハ會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ再審査ヲ命ズ 評議會　ナシ	審査會 一．加入．脱退．救濟金額決定其他給與ニ干スル處分ノ異議者ハ其通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日内ニ長官ニ審査ヲ求ムルヲ得 二．審査會ハ議長一名．委員六名ヲ以テ組織ス議長ハ長官．委員廳高等官ヲ以テ之ニ充ツ 三．議決方法．委員半數以上出席シ出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス 評議會　ナシ	
組合ハ組合員ノ保護救濟ノ爲低利貸付ヲ爲シ其他ノ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得	組合ハ組合員ノ保護救濟ノ爲ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得	組合ハ組合員ノ共濟ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得		組合ハ組合員ノ保護救濟ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得	組合ハ組合員ノ保護救濟ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得	組合ハ組合員ノ保護救濟ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得	

組合別 / 種別	國有鐵道共濟組合	海軍共濟組合	遞信部内職員共濟組合	專賣局現業員共濟組合	製鐵所共濟組合	造幣局共濟組合	林野現業員共濟組合
組合員タル資格	一. 有資格者 二項ノ無資格者以外部内職員全部 二. 無資格者 臨時使用者　無給者　外國人 三. 資格繼續 甲種組合員非現業ニ轉職シ又ハ判任官以上ノ身分ヲ取得ノ際ニ繼續ノ意思表示ヲ爲シタルトキハ乙種組合員トシテ繼續ス 四. 資格享有ノ時期 甲種組合員ニ在リテハ採用ノ時　乙種組合員ニ在リテハ其ノ意思表示ニヨリ承認ヲ得タルトキ	一. 有資格者 作業廳所屬ノ雇員以下ノ現業員及作業廳以外海軍各廳所屬ノ雇員以下ノ現業員 二. 無資格者 臨時使用者　無給者　外國人 三. 資格享有ノ時期 新採用者採用ノ日	一. 有資格者 二項無資格者以外部内職員全部 二. 無資格者 臨時使用者　無給者　外國人　逓信事務ヲ主トセサル者 三. 資格繼續 甲種組合員非現業ニ轉職ノ際ニ意思表示ヲナシタル者ハ乙種組合員トシテ資格ヲ繼續ス 廢廳、廢職其他官ノ都合若ハ兵役ニ服スル爲退職者三十日以内ニ再採用ノ場合（反對意思表示者ヲ除ク） 官吏練習所、講習所ニ入所者ガ退所後、再採用、復歸ノ場合（反對意思表示者ヲ除ク） 四. 資格享有ノ時期 新採用者採用ノ日	一. 有資格者 局所屬職員全部 二. 無資格者 現業員職工ニシテ就職ノ日ヨリ十日ヲ經過セサル者 非現業員ニシテ在職一年未滿ノ者 三. 資格繼續 甲種組合員非現業員ニ轉職ノ際意思表示ヲナシテ乙種トシテ繼續ス 陸海軍ニ徵集、召集者期間六ケ月以内ノ者ニシテ意思表示シタルトキ 四. 資格享有ノ時期 新採用者ハ就職ノ日 職工ニ限リ組合員タルニハ十日ヲ經過スルコトヲ要シ輕過後ハ其就職ノ日ヨリ資格享有スルモノトス	一. 有資格者 二項無資格者以外部内職員全部 二. 無資格者 臨時使用者　外國人　鑛夫 三. 資格繼續 甲種組合員非現業ニ轉職ノ際意思表示ヲナストキハ乙種トシテ繼續ス 四. 資格享有ノ時期 新採用者ハ採用ノ日	一. 有資格者 二項無資格者以外部内職員全部 二. 無資格者 臨時使用者　無給者　外國人 三. 資格繼續 甲種組合員非現業ニ轉職ノ際ニ意思表示ヲナストキハ乙種トシテ繼續ス 陸海軍ニ徵集、召集ノ期間四月以内ノ者ニシテ意思表示シタルトキ 四. 資格享有ノ時期 新採用者ハ就職ノ翌月 乙種組合員ハ承認ノ翌月又ハ轉職ノ際ニ於テ意思表示ヲナシタルトキ	一. 有資格者 二項無資格者以外部内職員全部 二. 無資格者 非現業員ニシテ大林區署長ノ承認ヲ受ケ得サル者、但資格繼續ノ意思表示者ヲ除ク 三. 資格繼續 現業員組合員非現業ニ轉職ノ際ニ意思表示ヲナストキハ乙種トシテ繼續ス 四. 資格享有ノ時期 新採用者採用ノ日
組合員ノ種類	一. 甲種組合員 鐵道手及雇員以下ノ現業員 二. 乙種組合員 現業員以外ノ職員 資格繼續ニヨリ加入シタル者	一. 男子組合員 二. 女子組合員	一. 甲種組合員 通信手及雇員以下ノ現業員 二. 乙種組合員 現業員以外ノ職員 資格繼續ニヨリ加入シタル者	一. 現業員タル組合員 煙草、鹽、樟腦ノ製造作業及其製造用材料品、器具、機械ノ製作竝機械ノ運轉ニ從事スル雇員工師及職工 二. 非現業員タル組合員 一項以外ノ職員 資格繼續ニヨリ加入シタル者	一. 甲種組合員 製鐵手及雇員以下ノ現業員 二. 乙種組合員 一項現業員以外ノ職員 資格繼續ニヨリ加入シタル者	一. 甲種組合員 雇員以下ノ現業員 二. 乙種組合員 一項現業員以外ノ職員 資格繼續ニヨリ加入シタル者	一. 現業員タル組合員 林區署雇員、巡視、給仕、小使、職工定夫及一年以上又ハ毎年一定期間國有公有林野官行造林ノ現業ニ從事スルモノ 二. 非現業員タル組合員 一項現業員以外ノ職員 資格繼續ニヨリ加入シタル者
組合脫退事由	一. 死亡 二. 退官、退職 三. 他官廳ヘ轉勤 四. 休職 五. 甲種組合員非現業ニ轉職但シ繼續意思表示者ヲ除ク 六. 乙種組合員、加入後又ハ繼續後一年ヲ經過シ脫退ノ意思表示ヲナシタルトキ 七. 無資格事由ニ該當シタルトキ	一. 死亡 二. 現業員タル資格ヲ失ヒタルトキ 三. 軍事徵集、召集、但シ休業日數十五週間超過ノ場合	一. 死亡 二. 退職（休職ヲ含ム） 三. 他官廳ヘ轉勤 四. 甲種組合員非現業ニ轉職但シ繼續意思表示者ヲ除ク 五. 乙種組合員加入後三年ヲ經過シ脫退ノ意思ヲ表示シタル者 六. 無資格事由ニ該當シタルトキ	一. 死亡 二. 退職、解職 三. 休職（在官ノ儘職務ヲ離レタルトキ） 四. 他官廳ヘ轉勤 五. 非現業ニ轉職、但シ繼續意思表示者ヲ除ク 六. 陸海軍ニ徵集、召集、但シ期間六ケ月以内ノ者、繼續意思表示者ヲ除ク 七. 陸海軍ニ徵集、召集セラレ後解除ヲ受ケ當局職務ニ復セサル者ハ其月ノ終ニ於テ脫退者ト看做ス 八. 事由ナク二ケ月以上掛金支拂遲延ノトキ	一. 死亡 二. 退官、退職 三. 他官廳ヘ轉勤 四. 甲種組合員非現業ニ轉職但繼續ノ意思表示者ヲ除ク 五. 乙種組合員、組合員トナリタルトキヨリ一年ヲ經過シ脫退ノ意思表示シタルトキ 六. 無資格事由ニ該當シタルトキ	一. 死亡 二. 退官、退職 三. 他官廳ヘ轉勤 四. 休職 五. 甲種組合員非現業ニ轉職但繼續ノ意思表示者ヲ除ク 六. 乙種組合員加入後三年以上經過シ脫退ノ意思表示ヲナシタルトキ 七. 無資格事由ニ該當シタルトキ 八. 陸海軍ニ徵集、召集、但シ四ケ月以内ノ繼續ノ意思表示者ヲ除ク 九. 事由ナク二ケ月以上掛金支拂遲延ノトキ	一. 死亡 二. 退官、退職 三. 他官廳ヘ轉勤 四. 休職 五. 現業員組合員非現業ニ轉職但繼續意思表示者ヲ除ク 六. 非現業員組合員加入、繼續後一年經過シ脫退ノ意思表示ヲナシタルトキ 七. 日給組合員軍事徵集、召集セラレ欠勤六ケ月ヲ超過ノ場合
請求權ノ範圍	組合ヲ脫退シタルトキ本規則ニ依リ給付ヲ受クル外組合ニ對シ何等ノ請求權ヲ有セズ	組合員又ハ組合員タリシ者本規則ニ定ムル所ニ依リ救濟ヲ受クルノ外本組合ニ對シ何等ノ請求權ヲ有セズ	組合員又ハ組合員タリシ者本合ニ依リ救濟金給與ヲ受クルノ外組合ニ對シ何等ノ請求權ヲ有セズ	組合ヲ脫退シタルトキ本規則ニ定ムル救濟金ノ給與ヲ受クルノ外組合ニ對シ何等ノ請求權ヲ有セズ	組合員又ハ組合員タリシ者ハ本規則ニ定ムルモノヽ外組合ニ對シ何等ノ請求權ヲ有セズ	組合員又ハ組合員タリシ者ハ本合ニ定ムルモノヽ外組合ニ對シ何等ノ請求權ヲ有セズ	組合ヲ脫退シタルトキハ本則所定ノ救濟金ノ給與ヲ受クルノ外組合ニ對シ何等ノ請求權ヲ有セズ

合　比　較　表（其二）　（大正十四年三月現在）

印刷局共濟組合	土木事業從事員共濟組合	警察共濟組合	陸軍共濟組合	臺灣鐵道職員共濟組合	臺灣遞信局及通信官署職員共濟組合	樺太廳鐵道及郵便局現業員共濟組合	備考
一. 有資格者 雇員以下ノ現業員 印刷局長ノ承認シタル者 二. 無資格者 局長ノ承認ヲ經サル者 三. 資格繼續 甲種組合員非現業ニ轉職ノ際ニ於テ局長ノ承認ヲ得タル場合 四. 資格享有ノ時期 就職又ハ承認ノ翌月	一. 有資格者 二項無資格者以外ノ職員全部 二. 無資格者 臨時使用者　無給者　外國人 三. 資格繼續 甲種組合員非現業ニ轉職ノ際ニ意思表示ヲナストキハ乙種トシテ繼續ス 四. 資格享有ノ時期 新採用者ニシテ月ノ初日ノ採用者ハ即日，月ノ中途採用者ハ翌月乙種組合員ハ承認ノ翌月又ハ轉職ノ際ニ於ケル意思表示ノ時	一. 有資格者 北海道廳，警視廳，各府縣所屬ノ警部補，巡査及判任官ノ待遇ヲ受クル消防手 二. 資格享有ノ時期 新任命者，復職者ハ任命若ハ復職ノ日	一. 有資格者 作業廳所屬ノ雇員以下ノ現業員 作業廳以外陸軍部隊所屬ノ雇員以下ノ現業員 二. 無資格者 六ケ月以內，雇傭ノ目的ヲ以テ傭入レタル者 三. 資格享有ノ時期 新採用者，採用ノ翌月	一. 有資格者 二項無資格者以外ノ職員全部 二. 無資格者 臨時使用者　無給者　外國人 三. 資格繼續 甲種組合員非現業ニ轉職ノ際意思表示ヲナシタルトキハ乙種トシテ繼續ス 四. 資格享有ノ時期 新採用者，採用ノ日	一. 有資格者 二項無資格者以外ノ職員全部 二. 無資格者 臨時使用者　無給者　外國人 三. 資格繼續 甲種組合員非現業ニ轉職ノ際意思表示シタルトキハ乙種トシテ繼續ス 廢廳，廢職其他官ノ都合若ハ兵役ニ服スル爲退職者ニシテ三十日以內ニ再採用ノ場合（反對意思表示者ヲ除ク） 四. 資格享有ノ時期 甲種組合員ハ採用ノ時 乙種組合員ハ加入承認ノ時	一. 有資格者 二項無資格者以外ノ職員全部 二. 無資格者 臨時使用者　無給者　外國人 三. 資格享有ノ時期 新採用者，採用ノ日	
一. 甲種組合員 雇員以下ノ現業員 二. 乙種組合員 一項ノ現業員以外ノ局員ニシテ局長ノ承認シタル者 資格繼續ニヨリ加入シタル者	一. 甲種組合員 雇員以下ノ現業員 二. 乙種組合員 一項ノ現業員ニアラサル職員 資格繼續ニヨリ加入シタル者			一. 甲種組合員 雇員以下ノ現業員 二. 乙種組合員 一項現業員以外ノ職員 資格繼續ニヨリ加入シタル者	一. 甲種組合員 遞信局及通信官署ノ雇員及傭人 二. 乙種組合員 一項以外ノ職員 資格繼續ニヨリ加入シタル者	一. 甲種組合員 雇員以下ノ現業員 二. 乙種組合員 一項以外ノ職員	
一. 死亡 二. 退官，退職 三. 他官廳ヘ轉勤 四. 休職 五. 無資格者ニ該當 六. 陸海軍ニ徵集，召集，但演習ノ爲一時召集ノトキヲ除ク 七. 乙種組合員局長ノ承認ヲ得タルトキ 八. 甲種組合員非現業ニ轉職但シ局長ノ承認ヲ得タルトキヲ除ク 九. 六項但書召集者一ケ月以上掛金ノ支拂ヲ遲延シタルトキ	一. 死亡 二. 退官，退職 三. 他官廳ヘ轉勤 四. 休職 五. 陸海軍ニ徵集，召集但期間四ケ月以內ノ繼續意思表示者ヲ除ク 六. 甲種組合員非現業ニ轉職但シ繼續意思表示者ヲ除ク 七. 乙種組合員加入後三年以上ヲ經過シ脫退ノ意思表示ヲナシタルトキ 八. 無資格事由ニ該當シタルトキ 九. 正當ノ事由ナク二ケ月分以上掛金支拂ヲ遲延シタルトキ	一. 死亡 二. 休職 三. 他官廳ニ轉勤 四. 免官（失官失職）	一. 死亡 二. 退業 官ノ都合ニヨリ免雇傭 軍事徵集，召集，配屬 傷痍疾病ノ爲退業 年齡滿限ノ退業 刑事處分ニヨリ免雇傭 三. 無資格事由ニ該當シタルトキ	一. 死亡 二. 退官，退職 三. 他官廳ヘ轉勤 四. 休職 五. 甲種組合員非現業ニ轉勤但シ資格繼續ノ意思表示者ヲ除ク 六. 乙種組合員加入後資格繼續後一年經過シ脫退ノ意思表示ヲナシタルトキ 七. 無資格事由ニ該當シタルトキ	一. 死亡 二. 退職（休職ヲ含ム） 三. 他官廳ヘ轉勤 四. 甲種組合員非現業ニ轉職但シ繼續意思表示者ヲ除ク 五. 乙種組合員加入後三年以上經過シ脫退意思表示ヲナシタルトキ 六. 無資格事由ニ該當シタルトキ	一. 死亡 二. 退官，退職 三. 他官廳ヘ轉勤 四. 休職 五. 甲種組合員非現業ニ轉職 六. 乙種組合員脫退ノ意思表示ヲナシタルトキ 七. 無資格事由ニ該當シタルトキ	
組合員組合ヲ脫退シタルトキハ所定ノ諸給與金ヲ受クルノ外本組合ニ對シ何等ノ請求權ヲ有セズ	組合員又ハ組合員タリシ者ハ本令ニ定ムルモノ，外組合ニ對シ何等ノ請求權ヲ有セズ	組合員又ハ組合員タリシ者本令ノ規定ニ依リ救濟金ノ給與ヲ受クル外組合ニ對シ何等ノ請求權ヲ有セズ	組合員ハ本規則ニ依リ救濟金ノ給與ヲ受クルノ外本組合ニ對シ何等ノ請求權ヲ有セズ	組合員，組合ヲ脫退シタルトキハ本令ニ依ル給付ヲ受クルノ外組合ニ對シ何等ノ請求權ヲ有セズ	組合員又ハ組合員タリシ者本令ニ依リ救濟金ノ給與ヲ受クルノ外組合ニ對シ何等ノ請求權ヲ有セズ	組合員組合ヲ脫退シタルトキハ本令ニ依リ救濟金ノ給與ヲ受クル外組合ニ對シ何等ノ請求權ヲ有セズ	

官營共濟組

組合別 / 種別	國有鐵道共濟組合	海軍共濟組合	内部職員遞信共濟組合	現業專賣局共濟組合	製鐵所共濟組合	造幣局共濟組合	林野現業共濟組合
掛金ノ種類	一. 給料月額百分ノ六 甲種組合員 二. 給料月額百分ノ十一 乙種組合員 三. 給料月額百分ノ七 資格繼續者タル乙種組合員及新加入後五年ヲ經過シタル乙種組合員ニ限リ選擇スルコトヲ得	一. 給料月額千分ノ五十四 男子組合員 二. 給料月額千分ノ二十七 女子組合員	一. 給料月額千分ノ五十六 甲種組合員 二. 給料月額千分ノ百 乙種組合員 三. 三等郵便局所屬組合員ハ所屬遞信局長ノ指定ニ依ル	一. 給料月額千分ノ三十乃至千分ノ二十七强 現業員タル組合員ハ二十七等ニ分類ス 二. 給料月額千分ノ五十 非現業員タル組合員	一. 給料月額百分ノ五.五 甲種組合員 二. 給料月額百分ノ十 乙種組合員 三. 給料月額百分ノ八 乙種ニシテ給付ノ種類ヲ限定シタルモノニ限ル	一. 給料月額百分ノ五 甲種組合員 二. 給料月額百分ノ九 乙種組合員	一. 給料月額千分ノ三十 現業員タル組合員 二. 給料月額千分ノ四十三 非現業員タル組合員
掛金ノ支拂時期	一. 每月給料受領ノ時. 但シ給料ヲ受ケサル月又ハ受領額カ掛金額ニ滿タサル月ハ次回給料受領ノ時 二. 未拂掛金月賦支拂一時ニ支拂不能ノ事情アリ組合員ノ請求アル場合 三. 給料受領ノ時徵收不能ナルトキハ給付支給ノトキ	每月給料支給ノ時. 但シ給料ヲ受ケサル月. 受領額カ掛金額ニ滿タサル月ハ次回給料支給ノトキ	每月給料受領ノ時. 但シ給料ヲ受ケサル月又ハ受領額カ掛金額ニ滿タサル月ハ次回給料支給ノトキ	一. 每月給料支拂ノ時. 但シ給料ノ支拂ヲ受ケサル月又ハ支拂フヘキ給料掛金額ニ滿タサル月ハ次回給料支給ノトキ 二. 給料分割支給ノ時ハ其月分ノ第一回支拂ノ時掛金全額ヲ支拂フモノトス 三. 陸海軍ニ徵集又ハ召集ノ時每月末日迄ニ支拂フモノトス	一. 每月給料受領ノ時. 但シ給料ヲ受領セサルトキ又ハ其受領額カ掛金額ニ滿サルトキハ次回ノ給料受領ノトキ 二. 給料受領ノトキ徵收不能ナルトキハ給付支給ノトキ	每月給料受領ノ際. 但シ給料ヲ受ケサル月又ハ掛金額ニ滿タサル月ハ次回受領ノトキ	每月給料支拂ノ時
掛金額改定	事由發生ノ翌月ヨリ改定ス	事由發生ノ翌月ヨリ改定ス	一. 組合ニ加入シタル月ニ應當スル月ニ於テ其前月末ニ於ケル給料額又ハ指定額ニ依リ掛金額ヲ改定ス 二. 甲種組合員ヨリ乙種組合員ニ又ハ乙種組合員ヨリ甲種組合員ニ變更ノ場合ハ其翌月ヨリ掛金ノ率ヲ改定ス	一. 年一回. 每年十月之ヲ改定ス 二. 現業員カ非現業員ニ非現業員カ現業員ニナリタルトキ. 掛金率全現業員ニ變更アリタルトキ又ハ現業員全部ニ亘リ給料更定セラレタルトキ. 其翌月分ヨリ改定ス 三. 職工ニテ改定ヲ爲ス場合ニハ前月ノ最後ノ給料支拂期ニ於ケル作業定時間平均日給額ノ三十分ノ二十五. 他ノ現業員タル組合員ニ付テハ掛金額ノ改定ヲ爲スヘキ月ノ前月ノ終ニ於ケル給額ヲ以テ之ヲ定ム	事由發生ノ翌月ヨリ改定ス	事由發生ノ翌月ヨリ改定ス	
掛金計算方法	一. 日給者 其三十日分ヲ給料月額トス 二. 臨時ノ給料支給額增減ハ掛金額ニ影響ナシ 三. 錢位未滿四捨五入ス	日給者 日給額ノ三十日分ヲ給料月額トス	一. 日給者 其日給額ニ三十ヲ乘シタル額ヲ給料月額トス 二. 給料支給額臨時ノ增減ハ掛金額ニ影響ナシ			一. 日給者其他 日給額ノ二十六日分ヲ給料月額トス 月額ノ十二倍ヲ以テ年額トス 二. 給料支給額臨時ノ增減ハ掛金額ニ影響ナシ 三. 錢位未滿ハ之ヲ切捨ツ	一. 日給者其他 日給額ノ卅日分ヲ給料月額トス 月給額ノ三十分ノ一ヲ給料日額トス 稼高又ハ時間制ニ依リ給料ヲ定ムルモノハ前就業日數三十日分前就業日數三十日未滿ノ時ハ就業全日數ノ給料日額平均ヲ其日給トス 共同作業者各自ノ給料割合不明ナル時又日額ヲ定メ得サルモノハ署長定ム 二. 給料支給額臨時ノ增減ハ掛金額ニ影響ナシ 三. 月ノ中途ニ於ケル加入脫退者又ハ定期勤務者ニシテ月ノ全日數ヲ勤務セサルトキハ日割計算ニ依ル
掛金免除	戰時事變ノ爲召集又ハ配屬セラレタルトキ	死亡又ハ脫退シ給料ノ支給ナク. 又ハ給料受領額カ掛金額ニ滿タス徵收不能トナリタル時		正當ノ事由アリ現業員タル組合員中. 職工ニ限リ給料支給ヲ受ケス又ハ支給額カ掛金額ニ滿タサル月ノ掛金支拂ヲ免除スルコトヲ得			

合　比　較　表（其　三）　（大正十四年三月現在）

印刷局共濟組合	土木事業從事員共濟組合	警察共濟組合	陸軍共濟組合	臺灣鐵道職員共濟組合	臺灣遞信局及通信官署職員共濟組合	樺太廳鐵道及郵便局現業員共濟組合	備考
一. 給料月額百分ノ五 甲種組合員 二. 給料月額百分ノ九 乙種組合員	一. 給料月額百分ノ五 甲種組合員 二. 給料月額百分ノ九 乙種組合員 三. 給料月額百分ノ七.五 乙種組合員ノ請求ニ依リ選擇	一. 月俸ノ百分ノ二	一. 給料月額百分ノ三 全部ヲ五十二等ニ區分ス多少ノ增減アリ	一. 給料月額百分ノ六 甲種組合員 二. 給料月額百分ノ十一 乙種組合員 三. 給料月額百分ノ七 資格繼續者タル乙種組合員及新加入後五年ヲ經過シタル乙種組合員ニ限リ選擇スルコトヲ得	一. 給料月額千分ノ五十六 甲種組合員 二. 給料月額千分ノ百 乙種組合員	一. 給料月額百分ノ三 甲種組合員 二. 給料月額百分ノ五 乙種組合員	
一. 每月給料受領ノ時．但シ給料ノ支給ヲ受ケサル月又ハ受領額カ掛金額ニ滿タサル月ハ次回受領ノトキ 二. 陸海軍演習等ノ爲一時召集セラレタル者ハ每月末日迄ニ支拂フモノトス	一. 每月給料受領ノ日．但シ給料ノ支給ヲ受ケサル月又ハ受領額カ掛金額ニ滿タサル月ハ次回受領ノトキ 二. 給料分割受領ノ時ニ於テハ其月分第一回受領ノ日掛金全額ヲ支拂フ	每月月俸受領ノ時	一. 每月給料支給ノ時．但シ給料ヲ受ケサル月又ハ受領額カ掛金額ニ滿タサル月ハ次回受領ノトキ 二. 給料分割支給ノ時ハ第一回支給ノ時掛金額ノ全額ヲ支拂フ 三. 給料支拂不能ノ時ハ救濟金支給ノ際ニ於テ控除ス	每月給料受領ノ時．但シ給料ヲ受ケサル月又ハ受領額カ掛金額ニ滿タサル月ハ次回受領ノトキ	每月給料受領ノ時．但シ給料ヲ受ケサル月又ハ受領額カ掛金額ニ滿タサル月ハ次回受領ノトキ	每月給料受領ノ時．但シ給料ヲ受ケサル月又ハ受領額カ掛金額ニ滿タサル月ハ次回受領ノトキ	
一. 異動ヲ生シタルトキ其翌月ヨリ掛金ノ額ヲ改定ス 二. 工程給工員ニ在リテハ加入後三ケ月目又ハ以後每年度ノ初ニ於テ前三十日間定時間賃金ノ平均額ヲ月給ト看做シ掛金額ヲ改定ス	事由發生ノ翌月ヨリ改定ス．但月ノ初日ニ於テ事由發生シタル時ハ此限ニ在ラス	事由發生ノ翌月ヨリ改定ス	事由發生ノ翌月ヨリ改定ス	事由發生ノ翌月ヨリ改定ス	組合ニ加入シタル月ニ應當スル月ニ於テ其前月末ニ於ケル給料額ニ依リ掛金額ヲ改定ス		
一. 日給者 日給者ハ其三十日分ヲ以テ月額トス 時間給工員ニ在リテハ八時間ニ對スル給額ヲ日給ト看做ス 工程給工員ニ在リテハ組合加入前ノ就業日數ニ對スル定時間賃金ノ平均額ヲ日給工員ノ給額ニ相當スルモノナキトキハ其額ニ最モ近キ低額ヲ標準トス 二. 給料支給額臨時ノ增減ハ掛金額ニ影響ナシ	一. 日給者 日給額ノ三十倍ヲ給料月額トシ年俸ノ十二分ノ一ヲ以テ給料月額トス 二. 給料支給額臨時ノ增減ハ掛金額ニ影響ナシ 三. 錢位未滿ハ之ヲ切捨ツ 四. 月ノ中途脫退者ハ掛金ノ算定ニ付テハ其ノ月ノ終ニ於テ脫退シタルモノト看做ス		一. 月給者ハ其ノ三十分ノ一ヲ以テ日給額トス 二. 給料支給額ニ增減ヲ生スルモ之カ爲掛金額ヲ增減セス	一. 日給者其他 日給額ノ三十日分ヲ給料月額トス 判任官ハ月俸額ニ其十分ノ六ヲ加算シタルモノヲ給料月額トス 高等官ハ年俸額ニ其十分ノ五ヲ加算シタルモノノ十二分ノ一ヲ給料月額トス 二. 給料支給額臨時ノ增減ハ掛金額ニ影響ナシ 三. 錢位未滿ハ四捨五入トス	一. 日給者其他 日給額ニ三十ヲ乘シタル額ヲ給料月額トス 判任官以上ノ者ハ月俸額ニ加俸加算シタル額ヲ給料月額トス 二. 給料支給額臨時ノ增減ハ掛金額ニ影響ナシ	一. 日給者其他 日給額ノ三十日分ヲ給料月額トス 年俸者ハ其十二分ノ一ヲ給料月額トス 二. 給料支給額臨時ノ增減ハ掛金額ニ影響ナシ 三. 錢位未滿ハ四捨五入トス	
組合加入後六ケ月未滿ノ者ニシテ給料ノ支給ヲ受ケサル月又ハ給料ノ支給ヲ受クルモ其ノ受領額カ掛金額ニ滿タサル月ニ脫退シタルトキ其月ノ掛金ヲ免除ス				戰時事變ノ爲召集又ハ配屬セラレタル時			

官營共濟組

組合別 / 種別		國有鐵道共濟組合	海軍共濟組合	遞信部内職員共濟組合	專賣局現業員共濟組合	製鐵所共濟組合	造幣局共濟組合	林野現業員共濟組合
給付ノ併給		一. 各給付ハ併給ス 二. 退職給付ト癈疾年金ハ併給セズ 三. 公傷年金ト退職年金トノ併給スル場合ニ其ノ額給料年額ヲ超過スルトキハ該給料年額ヲ限リ公傷年金トシテ給ス 四. 癈疾年金ノ額、退職年金額ニ達セザルトキハ退職年金額ヲ癈疾年金トシテ給ス	一. 各救濟金ハ併給ス 二. 退職年金ト癈疾年金又ハ勤續救濟金ハ併給セズ 三. 癈疾年金額、退職年金額ニ達セザルトキハ退職年金額ヲ癈疾年金トシテ給與ス （本組合癈疾年金ハ公傷年金ニ同ジ）	一. 各救濟金ハ併給ス 二. 退職年金ト脫退給與金及勤續給與金ハ併給セズ 三. 癈疾年金ト傷痍給與金若ハ疾病給與金ハ併給セス （本組合癈疾年金ハ公傷年金ニ同ジ）	一. 各給與金ハ併給ス 二. 産婦給與金ト疾病給與金トハ併給セズ	一. 各給付ハ併給ス 二. 公傷病年金ト脫退年金トノ併給ハ給料年額ヲ限度トス 三. 癈疾給付ト脫退給付ハ給付ノ多額ナルモノヲ給ス 四. 癈疾年金ト脫退一時金ハ給付受領者ノ選擇シタルモノヲ給ス	一. 各給付ハ併給ス 二. 公傷給與金ト特症給與金ハ併給セズ 三. 遺族給與金ト脫退給與金ハ併給セズ 四. 公傷年金ト脫退年金トノ併給ハ給料年額ヲ超ユルヲ得ズ	各給與金ハ併給ス
並其給計料算		一. 給付ノ事由發生當時ノ掛金ノ標準タル給料ヲ標準給料トス 二. 日給者ハ其三十日分ヲ一ケ月ノ額トシ其十二倍ヲ一ケ年ノ額トス 月給者ハ其三十分ノ一ヲ一日分ノ額トス 三. 錢位未滿四捨五入ス但シ年金額算定ノ場合ハ圓位未滿之ヲ圓位ニ滿タシム	一. 給付ノ事由發生當時ノ掛金ノ基準タル給料ヲ給付ノ標準給料トス 二. 日給者ハ其三十日分ヲ一ケ月ノ額トシ其十二ケ月分ヲ一ケ年ノ額トス 三. 月給者ハ其三十分ノ一ヲ一日分ノ額トス 四. 錢位未滿四捨五入ス	一. 給付ノ標準給料ハ事由發生當時ノ掛金ノ標準タル給料トス 二. 錢位未滿四捨五入ス	給付ノ標準給料ハ事由發生當時ノ掛金ノ標準タル給料トス	給付ノ標準給料ハ事由發生當時ノ掛金ノ標準タル給料トス	給付ノ標準給料ハ事由發生當時ノ掛金ノ標準タル給料トス	給付ノ標準給料ハ事由發生當時ノ掛金ノ標準タル給料トス
期給付ノ支給		一. 給付ノ支給ハ退官退職死亡ノ翌月ヨリ開始ス 二. 遺族年金ノ轉給ハ權利發生ノ翌月ヨリ開始ス 三. 年金ハ月割計算トス四月、七月、十月及一月ニ於テ其前三ヶ月分ヲ給ス權利消滅ノ場合ハ期月ニ拘ラズ之ヲ給ス	一. 年金ハ脫退ノ月ヨリ起算ス 二. 年金ハ月割計算トス、其年額ヲ四分シ、三月、六月、九月、十二月ニ於テ其前三ヶ月分ヲ給ス、受領者死亡ノ時期月ニ拘ラズ其期分全額ヲ支給ス	一. 年金ハ其年額ヲ四分シ三月、六月、九月及十二月ニ於テ其三ヶ月分ヲ支給ス、權利消滅ノ場合ハ期月ニ拘ラズ其期分全額ヲ給ス		一. 年金ノ支給、轉給ハ其事由發生シタル月ノ翌月ヨリ開始ス 二. 年金ハ月割トス四月、七月、十月及一月ニ於テ各其前月迄ノ分ヲ給ス但シ權利消滅ノ場合ハ期月ニ拘ラズ各其當月迄ノ分ヲ給ス	一. 年金給與ノ事由發生ノ翌月ヲ以テ給與ヲ開始シ事由消滅ノ月ヲ以テ終了ス 二. 年金ハ月割ヲ以テ計算シ一月、四月、七月及十月ニ於テ其前三ヶ月分ヲ支給ス但シ權利消滅ノ場合ニ於テハ期月ニ拘ラズ之ヲ支給ス	
年金前渡制		公傷、癈疾、退職年金受領者ハ脫退ノ日ヨリ五年以内ニ請求シ事業場控除引金ノ必要アリト認メラレタル場合ニ限リ既ニ給シタル年金額ヲ控除シタル殘額ニ付復利年七分ノ割引ヲ以テ一時ニ給スルコトヲ得	年金受領者ハ本人ノ請求ニ因リ次ノ範圍ニテ利率年六分ノ割引ヲ以テ一時ニ支給スルコトアリ 一. 退職年金ハ脫退後七年以内ニ限リ年金七年分以内 二. 癈疾年金ハ脫退後五年以内ニ限リ年金五年分以内	癈疾年金又ハ退職年金受領者ハ脫退後七年以内ニ限リ年金五年分ノ割引ヲ以テ一時ニ支拂ヲ爲スコトアルベシ				
權利喪失原因	除斥期間	事由發生ノ日ヨリ三年以内ニ請求ヲ爲スコトヲ要ス	事由發生ノ日ヨリ一年以内ニ請求ヲ爲スコトヲ要ス	事由發生ノ日ヨリ一年以内ニ請求ヲ爲スコトヲ要ス 年金毎期ノ支拂請求ニ付之ヲ準用ス	事由發生ノ日ヨリ一年以内ニ請求ヲ爲スコトヲ要ス	事由發生ノ日ヨリ三年以内ニ請求スルコトヲ要ス 各期月支給ノ給付ハ其月ノ初日ヨリ三年以内ニ請求スルコトヲ要ス	事由發生ノ日ヨリ一年以内ニ請求ヲ爲サヾルトキ權利拋棄シタルモノト看做ス	
	其他	一. 犯罪ニ因リ死亡シタルトキ 二. 懲戒處分若ハ刑事裁判ニ因リ其官職ヲ免セラレタルトキ 三. 年金受領者再ビ在職スルニ至リタル時其期間給セズ	一. 犯罪行爲ニ因リ又ハ故意ノ傷病ニ因リ死亡シタルトキ 二. 刑罰又ハ懲戒處分ニ因リ雇傭ヲ解レタルトキ 三. 故意ニ組合員又ハ救濟金受領ノ先順位者ヲ死ニ致シ死ニ致サントシ訴追セラレタルモノ 四. 特ニ命セラレタル者ノ臨檢診斷ヲ拒ミタルトキ 五. 年金ヲ賣買、讓渡、質入、書入シタルトキハ其ノ支給ヲ停止シ又ハ給與ヲ爲サズ	一. 犯罪ニ因リ死亡シタルトキ 二. 懲戒處分若ハ刑事裁判ニ因リ解職セラレタルトキ 三. 故意ニ給付受領者又ハ先順位者ヲ死ニ致シ死ニ致サントシ訴追セラレタルモノ 四. 申告ヲ怠リ又ハ醫師ノ臨檢、診察治療及職員ノ臨檢ヲ拒ミタルトキ 五. 年金ヲ賣買、讓與、質入、書入シタルトキハ其支拂ヲ停止シ又ハ給與ヲ爲サズ 六. 刑事裁判ノ爲訴追セラレタルトキハ給與ヲ停止ス、有罪裁判確定ノ時ハ給與ヲ爲サズ	一. 決鬪其他ノ犯罪ニ因リ死亡シタルトキ 二. 懲戒處分若ハ刑事裁判ニ因リ解職セラレタルトキ 三. 故意ニ組合員ヲ死ニ致シタルトキ 四. 刑事々件ニ因リ休職トナリタルトキ又ハ有罪判決ノ確定シタルトキ 五. 申告ヲ怠リ臨檢又ハ診療ヲ拒ミタルトキ 六. 正當ノ事由ナク二ケ月以上掛金ノ支拂ヲ遲延シ脫退シタルトキ	一. 自己ノ犯罪ニ因リ死亡シタルトキ 二. 刑事裁判、懲戒處分ニ因リ官職ヲ免セラレ脫退シタルトキ 三. 故意ニ組合員年金受領者及先順位者ヲ死ニ致シタルトキ 四. 年金ヲ讓渡シ擔保ニ供シタルトキ 五. 申告ヲ怠リ診斷ヲ拒絕シタルトキ 六. 年金ヲ受ケ又ハ受クベキ者再ビ在職スルニ至リタル時支給セズ	一. 自己ノ犯罪ニ因リ死亡シタルトキ 二. 懲戒處分、刑事裁判ニ因リ失官免官解職セラレタルトキ 三. 組合員及其家族ニシテ組合指定者ノ臨檢又ハ診察ヲ拒絕シタルトキ 四. 故意ニ組合員年金受領者先順位者ヲ死ニ致シタルトキ 五. 正當ノ事由ナク二ケ月分以上掛金ノ支拂ヲ遲延シ脫退シタルトキ 六. 刑事々件ニ關シ告訴告發セラレ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ 七. 年金ヲ讓渡質入ヲ爲シタルトキ 八. 年金受領者死刑、無期、又ハ六年以上懲役禁錮ニ處セラレタルトキ六年未滿ノ懲役禁錮ニ處セラレ刑ノ執行中ノトキ	申告ヲ爲サズシテ一ケ月ヲ經過シタルトキハ其事實ヲ以テ組合ニ對抗スルコトヲ得ズ

合　比　較　表（其　四）　（大正十四年三月現在）

印刷局共濟組合	土木事業從事員共濟組合	警察共濟組合	陸軍共濟組合	臺灣鐵道職員共濟組合	臺灣遞信局及通信官署職員共濟組合	樺太廳鐵道及郵便局現業員共濟組合	備考
一. 各給付ハ併給ス 二. 脫退給與金ト年金トハ併給セズ 三. 年金ト年金トハ併給セズ其金額ノ多キ方ヲ給ス	一. 各給付ハ併給ス 二. 遺族給付ト脫退給付ハ併給セズ 三. 障害年金ト脫退年金トノ併給ハ其給付總額ハ給料年額ニ止ム	各給付ハ併給ス	一. 各救濟金ハ併給ス	一. 各給付ハ併給ス 二. 公傷年金ト退職年金トヲ併給ノ場合其額給料年額ヲ超過スルトキ該給料年額ヲ限リ公傷年金トシテ給ス	一. 各給付ハ併給ス 二. 退職年金ト脫退給與金及勤續給與金ハ併給セズ 三. 癈疾年金ト傷痍給與金若ハ疾病給與金ハ併給セズ （本組合癈疾年金ハ公傷年金ニ同ジ）	一. 各救濟金ハ併給ス 二. 死亡給與金ト脫退給與金ハ併給セズ 三. 脫退給與金額ガ死亡給與金額ヨリ多キトキハ死亡給與金トシテ之ヲ給與ス	
一. 給付ノ標準給料ハ事由發生當時ノ掛金ノ標準タル給料トス 二. 日給者ハ三十日分ヲ一ケ月ノ額トシ月額ノ十二倍ヲ以テ一ケ年ノ額トス但時間給工員及工程給工員ハ就業日數ニ對スル定時間賃金平均額ヲ日給ト看做ス 三. 月給者ハ其三十分ノ一ヲ以テ一日分ノ額トス	一. 給付ノ標準給料ハ事由發生當時ノ掛金ノ標準タル給料トス 二. 月給者ハ其三十分ノ一ヲ以テ一日ノ額トス 三. 錢位未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ	給付ノ標準給料ハ事由發生當時ノ掛金ノ標準タル給料トス	一. 給付ノ標準給料ハ給付ノ事由發生當時ノ給額ニ依ル 二. 月俸者其三十分ノ一ヲ給料一日分トシ其六十分ノ一ヲ以テ給料半日分トス 三. 厘位四捨五入シ錢位ニ止ム	一. 給付ノ標準給料ハ事由發生當時ノ掛金ノ標準タル給料トス 二. 日給者ハ其三十日分ヲ以テ一ケ月ノ額トシ其十二倍ヲ以テ一ケ年ノ額トス 三. 月給者ハ其三十分ノ一ヲ以テ一日分ノ額トス 四. 判任官ハ月俸額ニ其十分ノ六ヲ加ヘ高等官ハ年俸額ニ其十分ノ五ヲ加フ	給付ノ標準給料ハ事由發生當時ノ掛金ノ標準タル給料トス	一. 給付ノ標準給料ハ事由發生當時ノ掛金ノ標準タル給料トス 二. 月俸者十二分ノ一ヲ給料月額トス 三. 日給者其三十日分ヲ給料月額トス 四. 錢位未滿四捨五入トス	
一. 年金ノ支給ハ脫退ノ翌月ヨリ開始ス 二. 遺族年金ノ轉給ハ權利發生ノ翌月ヨリ之ヲ開始ス 三. 年金ハ月割計算トス一月．四月．七月．十月ニ於テ其前三ケ月分ヲ支給ス但シ權利消滅ノ場合ハ期月ニ拘ラズ之ヲ支給ス	一. 給付事由發生ノ翌月ヲ以テ開始シ事由消滅ノ月ヲ以テ終了ス但シ月ノ初日ニ於テ給付事由發生ノトキハ其月ヲ以テ開始ス遺族年金轉給ノ場合亦同ジ 二. 年金ハ月割計算トス一月．四月．七月．十月ニ於テ其前三ケ月分ヲ支給ス但權利消滅ノ場合ハ期月ニ拘ラズ之ヲ支給ス			一. 年金支給ハ退官退職死亡ノ翌月ヨリ開始ス 二. 遺族年金ノ轉給ハ權利發生ノ翌月ヨリ之ヲ開始ス 三. 年金ハ月割計算トス．四月．七月十月．一月ニ於テ其前三ケ月分ヲ給ス但シ權利消滅ノ場合ハ期月ニ拘ラズ之ヲ給ス	年金ハ其年額ヲ四分シ三月．六月．九月．十二月ニ於テ其前三ケ月分ヲ支給ス．但年金受領者死亡シタルトキハ期月ニ拘ラズ其期分全額ヲ給ス	
					癈疾年金又ハ退職年金受領者ハ脫退後七年以內ニ限リ年金五年分ニ相當スル額以內ヲ利率年六分ノ割引ヲ以テ一時ニ支拂ヲ爲スコトアルベシ		
事由發生ノ日ヨリ一年內ニ請求ヲ爲スコトヲ要ス	事由發生ノ日ヨリ一年以內ニ請求セザルトキハ之ヲ受クル權利ヲ拋棄シタルモノト看做ス	事由發生ノ日ヨリ一年內ニ請求ヲ爲スコトヲ要ス	事故發生ノ日ヨリ二年以內ニ之ガ請求ヲ爲スコトヲ得	事由發生ノ日ヨリ三年以內ニ請求スルコトヲ要ス	事由發生ノ日ヨリ一年以內ニ請求スルコトヲ要ス．年金每期ノ支拂請求ニ付之ヲ準用ス	事由發生ノ日ヨリ一年以內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス	
一. 犯罪ニ因リテ死亡シタルトキ 二. 懲戒處分又ハ刑事裁判ニ因リテ職ヲ免セラレタルトキ 三. 陸海軍演習等ノ爲一時召集セラレタル場合ニ於テ軍人恩給法第二十四條ニ該當シタルトキ 四. 申告ヲ怠リ又ハ虛僞ノ申告ヲ爲シタルトキ 五. 印刷局醫師ノ診察ヲ拒絕シタルトキ 六. 四及五ノ規定ハ組合員ノ關係者又ハ給與金受領順位者ニ適用ス 七. 年金受領者重罪ノ刑ニ處セラレ若ハ日本臣民タル分限ヲ失ヒタルトキ 八. 再加入ノトキ又ハ公權停止ノトキハ其期間年金ヲ停止ス 九. 故意ニ組合員又ハ受領先順位者ヲ死ニ致シタルトキ	一. 自己ノ犯罪ニ因リ死亡シタルトキ 二. 懲戒處分又ハ刑事裁判ニ因リ失官免官俘職セラレタルトキ 三. 組合員及其家族組合指定者ノ臨檢診察ヲ拒絕シタルトキ 四. 故意ニ組合員．年金受領者．受領先順位者ヲ死ニ致シタルトキ 五. 刑事々件ニ關シ告訴告發セラレタルトキ裁判確定ニ至ル迄給付ノ支給ヲ停止シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ 六. 正當ノ事由ナク二ケ月分以上掛金ノ支拂ヲ遲延シ脫退シタルトキ 七. 年金ヲ讓渡質入ヲ爲シタルトキ 八. 六年ノ懲役．禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ六年未滿ノ懲役禁錮ニ處セラレ刑ノ執行中ニアルトキ	一. 懲戒處分．刑事處分ニ因ル免職．失官．失職シタルトキ 二. 組合員及其家族ニシテ職員醫師ノ臨檢若ハ診察ヲ拒ミタルトキ 三. 故意ニ組合員又ハ先順位者ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サントシタル爲訴追セラレ裁判確定ニ至ル迄救濟金支給ヲ停止シ有罪ノ判決確定シタルトキ	一. 自己ノ犯罪行爲ニ因リ死亡シタルトキ 二. 刑ニ處セラレ又ハ懲戒懲罰ノ處分ニ依リ雇傭ヲ解カレタルトキ 三. 特ニ命セラレタル醫師又ハ職員ノ診斷臨檢又ハ治療ヲ拒ミタルトキ 四. 給付受領者犯罪行爲ニ關シ取調中ニ在ルトキ其支給ヲ停止ス	一. 組合員犯罪ニ因リ死亡シタルトキ 二. 懲戒處分若ハ刑事裁判ニ因リ其官職ヲ免セラレタルトキ 三. 年金受領者再在職スルニ至リタルトキハ其間年金ヲ支給セズ	一. 犯罪ニ因リ死亡シタルトキ 二. 懲戒處分若ハ刑事裁判ニ因リ解職セラレタルトキ 三. 刑事裁判ノ爲訴追セラレタル者ハ給與停止．有罪裁判確定ノトキ 四. 故意ニ給付受領者又ハ先順位者ヲ死ニ致シ死ニ致サントシ訴追セラレタルトキ 五. 申告ヲ怠リ又ハ醫師ノ臨檢診察治療職員ノ臨檢ヲ拒ミタルトキ 六. 年金ヲ賣買．讓渡．質入．書入シタルトキハ其支拂ヲ停止シ又ハ給與ヲ爲サズ	一. 犯罪ニ因リ死亡シタルトキ 二. 懲戒處分若ハ刑事裁判ニ因リ官職ヲ免セラレタルトキ 三. 申告ヲ怠リ組合指定ノ醫師ノ臨檢又ハ診察ヲ拒ミタルトキ	

官營共濟組

種別	組合別	國有鐵道共濟組合	海軍共濟組合	遞信部內職員共濟組合	專賣局現業員共濟組合	製鐵所共濟組合	造幣局共濟組合	林野現業員共濟組合
公傷給付	公傷年金	公傷病ニテ終身自用ヲ辨ズルコト不能程度 給額　給料七ヶ月分乃至九ヶ月分	公傷病ニテ終身自用ヲ辨ズルコト不能程度 (癈疾年金)女子組合員ヲ除外ス 給額　給料百五十日分乃至百八十日分	公傷病ニテ終身自用ヲ辨ズルコト不能程度 (癈疾年金) 給額　給料七ヶ月分乃至九ヶ月分		公傷病ニテ終身自用ヲ辨ズルコト不能程度 給額　給料七ヶ月分乃至九ヶ月分	公傷病ニテ終身自用ヲ辨ズルコト不能程度 給額　給料六ヶ月分乃至八ヶ月分	
		公傷病ニテ終身業務ニ就クコト不能程度 給額　給料四ヶ月分乃至六ヶ月分	公傷病ニテ終身業務ニ就クコト不能程度 (癈疾年金)女子組合員ヲ除外ス 給額　給料九十日分乃至百二十日分	公傷病ニテ終身業務ニ就クコト不能程度 (癈疾年金) 給額　給料三ヶ月分乃至五ヶ月分		公傷病ニテ終身勞務ニ服スルコト不能程度 給額　給料四ヶ月分乃至六ヶ月分	公傷病ニテ終身業務ニ就クコト不能程度 給額　給料三ヶ月分乃至五ヶ月分	
	公傷一時金	公傷病ニテ身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ズ因テ退官退職シタルトキ 給額　給料八ヶ月分乃至一年六ヶ月分	公傷病ニテ身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ズ因テ雇傭ヲ解カレタルトキ(傷病救濟金) 給額　給料六ヶ月分以上一ヶ年以內	公傷病ニテ身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ズ因テ退職シタルトキ(傷痍給與金) 給額　給料七ヶ月分乃至一年六ヶ月分	公傷病ニテ終身自用ヲ辨ズルコト不能程度 給額　給料千二百日分以內 公傷病ニテ終身業務ヲ營ムコト不能程度 給額　給料七百日分以內 公傷病ニテ身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ズ因テ退職シタルトキ 給額　給料五百日分以內 公傷病ニテ身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ザルモ引續キ其職務ニ服スルトキ 給額　給料二百五十日分以內	公傷病ニテ從來ノ勞務ニ服スルコト不能又ハ健康舊ニ復スルコト不能程度 給額　給料八ヶ月分乃至一年六ヶ月分	公傷病ニテ身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ズ因テ從來ノ勞務ニ服スルコト不能程度 給額　給料六ヶ月分乃至一年六ヶ月分	公傷病ニテ終身自用ヲ辨ズルコト不能程度 給額　給料日額六百日分 公傷病ニテ終身勞務ニ服スルコト不能程度 給額　給料日額五百五十日分 公傷病ニテ從來ノ勞務ニ服スルコト不能ノモノ又ハ健康舊ニ復スルコト不能程度 給額　給料日額{二百日分以上 四百日分以下 公傷病ニテ身體ニ障害ヲ存スト雖引續キ從來ノ勞務ニ服スルモノ 給額　給料日額{三十日分以上 二百日分以下
		公傷病ニテ身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ザルモ引續キ職務ニ服スルトキ 給額　給料一ヶ月分乃至六ヶ月分	公傷病ニテ身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ザルモ引續キ同一廳ニ於テ業務ニ服スルトキ 給額　給料二ヶ月分以上一ヶ年以內	公傷病ニテ身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ザルモ職務ニ堪ユルトキ 給額　給料一ヶ月分乃至六ヶ月分		公傷病ニテ身體ヲ傷害シ舊ニ復スルコト得ザルモ引續キ從來ノ勞務ニ服スルトキ 給額　給料一ヶ月分乃至六ヶ月分	公傷病ニテ身體ニ障害ヲ存スト雖引續キ從來ノ勞務ニ從フコトヲ得ルトキ 給額　給料一ヶ月分乃至五ヶ月分	
	障害給付再發機能	公傷病者ニシテ給付ヲ受クルニ至ラザル者再發ニ因リ機能障害ヲ貽シ又ハ給付ヲ受クルモ再發ニヨリ機能障害ノ程度增進セルトキハ當該給付ヲ給シ又ハ改定ス但脫退者ニ對シテハ脫退後一年以內ノモノニ限ル	嘗テ傷病救濟金ノ支給ヲ受ケタル者再ビ傷痍疾病ニ罹リタルトキ新舊傷痍疾病ノ合併ニ依リ上給ノ傷病救濟金又ハ癈疾年金ヲ給ス但シ相當金額中ヨリ傷病救濟金ニ在リテハ既給金額ノ半額癈疾年金ニ在リテハ給料三十日以內ヲ減給ス			公傷病者ニシテ給付ヲ受クルニ至ラザルモノ再發ニ因リ機能障害ヲ貽シ又ハ給付ヲ受クルモ再發ニヨリ機能障害ノ程度增進セルトキハ當該給付ヲ給シ又ハ改定ス但脫退者ニ對シテハ脫退後一年以內ノモノニ限ル	公傷病者ニシテ給付ヲ受クルニ至ラザルモノ再發ニ因リ機能障害ヲ貽シ又ハ給付ヲ受クルモ再發ニヨリ機能障害ノ程度增進セルトキ當該給付ヲ給シ又ハ改定ス但脫退者ニ對シテハ脫退後一年以內ノモノニ限ル	
遺族給付	遺族年金	公傷病ニテ死亡シタルトキ又ハ公傷一時金受領者引續服務スル者當該傷病ニ基因シ死亡シタルトキ 給額　給料四ヶ月分但十五年經過者ハ五ヶ月分				公傷病ニテ死亡シタルトキ 給額　給料三ヶ月分	公傷病ニテ死亡シタルトキ 給額　給料三ヶ月分但二十年經過者ハ四ヶ月分	
	遺族年金順位	一. 配偶者 二. 組合員未丁年未婚ノ遺子 前二項年金受領資格者分家ニヨリ權利ヲ喪ハス 三. 直系尊屬(父. 母. 祖父. 祖母)				一. 配偶者 二. 組合員未丁年未婚ノ遺子 三. 直系尊屬	一. 配偶者 二. 組合員ノ未丁年未婚ノ遺子 三. 直系尊屬(父. 母. 祖父. 祖母)	
	遺族一時金及年金受領者短命一時金	一. 私傷病ニテ死亡シタルトキ 給額　給料六ヶ月分乃至一年六ヶ月分 二. 公傷年金受領者退職ノ日ヨリ七年內ニ死亡シ又ハ受領ノ權利確定シ未タ年金ノ支給ヲ受ケズ在職中死亡シタルトキ 給額　年金ノ七年分. 但既給年金額控除 三. 癈疾. 退職年金受領者退職ノ日ヨリ六年內ニ死亡シ. 又ハ退職年金受領ノ權利確定シ未タ年金ノ支給ヲ受ケズ在職中死亡シタルトキ 給額　年金ノ六年分. 但シ既給年金額控除 四. 年金及一時金受領者ナキトキハ年金ハ三年分. 一時金ハ其ノ三分ノ二ヲ死亡者ノ爲ニ處分スルコトヲ得	一. 公傷病ニテ死亡シタルトキ 給額　給料二年三ヶ月分乃至二年六ヶ月分 二. 私傷病ニテ死亡シタルトキ 給額　給料九十日分以上(加入年數ニ依リ加算) 三. 癈疾(公傷)年金受領者脫退後五年以內ニ死亡シ又ハ年金ノ給與ヲ受クヘキ者脫退後給與ヲ受クルニ至ラズ死亡シタルトキ 給額　年金五年分但シ既給年金額控除 四. 退職年金受領者脫退後七年內ニ死亡シ又ハ年金給與ヲ受クヘキ者脫退後給與ヲ受クルニ至ラズ死亡シタルトキ 給額　年金七年分但シ既給年金額控除	一. 公傷病ニテ死亡シタルトキ 給額　給料二年六ヶ月分乃至三年分 二. 死亡シタルトキ 給額　給料三ヶ月分以上(加入年數ニ依リ加算) 三. 癈疾(公傷)年金受領者脫退後五年以內ニ死亡シ又ハ脫退後年金ノ給與ヲ受クルニ至ラズ死亡シタルトキ 給額　年金五年分但シ既給年金額控除 四. 退職年金受領者脫退後七年以內ニ死亡シ又ハ年金ノ給與ヲ受クルニ至ラズシテ死亡シタルトキ 給額　年金七年分但既給年金額控除	一. 公傷病ニテ死亡シタルトキ 給額　給料千二百日分以內 二. 死亡シタルトキ(傷病ノ公私ヲ問ハズ) 給額　給料六十日分以上 一年經過シタルトキハ七十日分爾後一年ヲ增ス每ニ十日分ヲ加算ス但シ最低額ハ二十圓トス	一. 公傷病ニテ死亡シタルトキ 給額　給料十ヶ月分以上(加入年數ニ依リ加算) 二. 私傷病ニテ死亡シタルトキ 給額　給料五ヶ月分以上(加入年數ニ依リ加算) 三. 公傷病年金. 癈疾年金及脫退年金受領者六年以內ニ死亡シタルトキ 給額　年金六年分. 既給年金額控除	一. 私傷病ニテ死亡シタルトキ 給額　給料六ヶ月分以上(加入年數ニ依リ加算) 二. 公傷年金受領者脫退ノ日ヨリ七年以內ニ死亡シ又ハ受領ノ權利確定シ未ダ其ノ支給ヲ受クルニ至ラズシテ死亡シタルトキ 給額　年金七年分相當額ヨリ既給年金額控除ノ半額. 但シ既給年金額ト合シテ給料二十ヶ月分ヲ下ルコトナシ 三. 脫退年金受領者脫退ノ日ヨリ六年以內ニ死亡シ又ハ受領ノ權利確定シ未ダ其支給ヲ受クルニ至ラズシテ死亡シタルトキ 給額　年金六年分既給年金額控除	一. 公傷病ニテ死亡シタルトキ 給額　給料日額六百日分 二. 私傷病ニテ死亡シタルトキ 給額　給料日額三十日分以上百日分以下
	遺族一時金及年金受領者短命一時金順位	一. 直系卑屬 二. 配偶者 三. 直系尊屬	一. 配偶者　六. 死者ノ扶養ヲ受ケタル者 二. 直系卑屬 三. 直系尊屬　七. 他家ニ在ル直系卑屬 四. 戶主 五. 兄弟姉姉　八. 他家ニ在ル直系尊屬	一. 配偶者　六. 他家ニ在ル直系卑屬 二. 直系卑屬 三. 直系尊屬　七. 他家ニ在ル直系尊屬 四. 兄弟姉妹 五. 戶主　八. 他家ニ在ル兄弟姉姉 九. 扶養ヲ受ケタル者	一. 配偶者　六. 死亡者ノ扶養ヲ受ケタル者 二. 直系卑屬 三. 直系尊屬　七. 他家ニ在ル直系卑屬 四. 戶主 五. 兄弟姉妹　八. 他家ニ在ル直系尊屬	一. 配偶者 二. 直系卑屬 三. 直系尊屬 四. 戶主 五. 兄弟姉妹 六. 扶養ヲ受ケタル者	一. 配偶者　六. 他家ニ在ル直系卑屬 二. 直系卑屬 三. 直系尊屬　七. 他家ニ在ル直系尊屬 四. 戶主 五. 兄弟姉妹	
	葬祭金	一. 公傷病ニテ死亡ノ場合 給額　給料三ヶ月分 二. 私傷病ニテ死亡ノ場合 給額　給料一ヶ月分 受領者. 葬祭執行者	一. 組合員死亡シ救濟金ヲ受クベキ者ナキトキハ葬祭ヲ行フ者ニ給ス 給額　六十圓以內ノ實費		一. 死亡給與金ハ長官ニ於テ特ニ必要ト認メタル場合ニ限リ該組合員ノ葬祭費トシテ其全部又ハ一部ヲ葬祭執行者ニ給與ス	一. 公傷病ニテ死亡ノ場合 給額　給料二ヶ月分 二. 私傷病ニテ死亡ノ場合 給額　給料一ヶ月分 受領者. 葬祭ヲ營ム遺族	一. 公傷病ニテ死亡ノ場合 給額　給料二ヶ月分 二. 私傷病ニテ死亡ノ場合 給額　給料一ヶ月分 受領者. 葬祭執行者	一. 公傷病ニテ死亡ノ場合 給額　給料日額三十日分以上百日分以下

合比較表（其五）（大正十四年三月現在）

印刷局共濟組合	土木事業從事員共濟組合	警察共濟組合	陸軍共濟組合	臺灣鐵道職員共濟組合	臺灣遞信局及通信官署職員共濟組合	樺太廳鐵道及郵便局現業員共濟組合	備考
公傷病ニテ終身自用ヲ辨ズルコト不能程度 給額　給料七ケ月分乃至九ケ月分	公傷病ニテ終身自用ヲ辨ズルコト不能程度 （障害年金） 給額　給料六ケ月分乃至八ケ月分		公傷病ニテ兩眼ヲ盲シ若ハ一肢以上ヲ亡シタル者 （本人ノ選擇ニ依ル） 給額　給料五月分又ハ六ケ月分	公傷病ニテ終身自用ヲ辨ズルコト不能程度 給額　給料七ケ月分乃至九ケ月分	公傷病ニテ終身自用ヲ辨ズルコト不能程度 給額　給料七ケ月分乃至九ケ月分		
公傷病ニテ終身從來ノ業務ニ就クコト不能程度 給額　給料五ケ月分乃至七ケ月分	公傷病ニテ身業務ニ就クコト能ハザル程度 （障害年金） 給額　給料三ケ月分乃至五ケ月分			公傷病ニテ終身業務ニ就クコト不能程度 給額　給料四ケ月分乃至六ケ月分	公傷病ニテ終身業務ニ就クコト不能程度 給額　給料三ケ月分乃至五ケ月分		
公傷病ニテ終身自用ヲ辨ズルコト不能程度 給額　給料二年分以内 公傷病ニテ終身從來ノ業務ニ就クコト不能程度 給額　給料一年分以内 公傷病ニテ身體ヲ毀損シ舊ニ復スルヲ得ズ因テ脫退シタルトキ 給額　給料一年六ケ月分以內 公傷病ニテ身體ヲ毀損シ舊ニ復スルヲ得ズ因テ脫退シタルトキ 給額　給料一年分以內	公傷病ニテ身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ズ因テ從來ノ勞務ニ從フコト不能（障害一時金） 給額　給料六ケ月分乃至一年六ケ月分 公傷病ニテ身體ニ障害ヲ存スルモ引續キ從來ノ勞務ニ從フコトヲ得ルトキ（障害一時金） 給額　給料一ケ月分乃至五ケ月分 公傷病者ニシテ給付ヲ受クルニ至ラザルモノ再發ニ因リ機能障害ヲ貽シ又ハ給付ヲ受クルモ再發ニヨリ機能障害ノ程度增進セルトキ該給付ヲ給シ又ハ改定ス但脫退モノニ對シテハ脫退後一年以內ノニ限ル	一. 公傷病ニテ自用ヲ辨シ得ザル程度ノ重症ニ趨キ治癒ノ見込ナク退職シタルトキ 二. 公傷病ニテ終身職務ニ堪ヘズ退職シタルトキ 三. 病毒傳播ノ危險アル肺結核．喉頭結核又ハ癩病ニ因リ退職シタルトキ 給額　以上ノ一ニ該當スル場合ニ於テ月俸六ケ月分相當額	一. 公傷病ニテ兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ヲ亡シタルトキ 給額　給料七百五十日分又ハ九百日分 二. 公傷病ニテ一肢ヲ亡シ若ハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 給額　給料五百日分又ハ六百日分 三. 公傷病ニテ一眼ヲ盲シ若ハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 給額　給料三百日分又ハ四百日分 四. 第三程度以下ノ不具癈疾トナリタルトキ 額給　給料五十五日分乃至二百日分 公傷病者ニシテ給付ヲ受ケタル後該傷病重症ニ趨キ又ハ該傷病ニ基因シテ上級ノ等級ニ該當スルニ至リタルトキ新等級ニ對スル救濟金トノ差額ヲ給ス但シ脫退後ハ此ノ限ニ在ラズ	公傷病ニテ身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ズ因テ退官又ハ退職シタルトキ 給額　給料八ケ月分乃至一年六ケ月分 公傷病ニテ身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ズ因テ雖引續キ職務ニ服スルトキ 給額　給料一ケ月分乃至六ケ月分 公傷病者ニシテ給付ヲ受クルニ至ラザル者再發ニ因リ機能障害ヲ貽シ又ハ給付ヲ受クルモ再發ニヨリ機能障害ノ程度增進セルトキ該給付ヲ給シ又ハ改定ス但脫退後一年以內ノニ限ル	公傷病ニテ身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ズ因テ退職シタルトキ 給額　給料七ケ月分乃至一年分 公傷病ニテ身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ザルモ職務ニ堪ユルトキ 給額　給料一ケ月分乃至六ケ月分	公傷病ニテ身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ズ因テ退官退職シタルトキ 給額　給料三ケ月分乃至六ケ月分 公傷病ニテ身體ヲ毀損シ舊ニ復スルヲ得ザルモ引續キ職務ニ服スルトキ 給額　給料一ケ月分乃至三ケ月分 公傷病者ニシテ給付ヲ受クルニ至ラザル者再發ニ因リ機能障害ヲヨリ貽シ又ハ給付ヲ受クルモ再發ニヨリ機能障害ノ程度增進セルトキハ該給付ヲ給シ又ハ改定ス但脫退後一年以內ノニ限ル	
公傷病ニテ死亡シタルトキ．又ハ勤勞年金受領資格ニ達シタル後死亡シ竝公傷．癈疾．勤勞年金受領權利確定シ未ダ其支給ヲ受ケズ死亡シタルトキ 給額　（公傷病死亡給料五ケ月分 （其他本人ノ受クヘキ年金額ノ二分ノ一	公傷病ニテ死亡シタルトキ 給額　給料三ケ月分但加入後二十年以上ノトキ給料四ケ月分			公傷病ニテ死亡シタルトキ又ハ公傷一時金受領者引續服務スルモノ當該傷病ニ因シ死亡シタルトキ 給額　給料四ケ月分但十年經過者ハ五ケ月分			
一. 配偶者 二. 組合員ノ家ニ在ル未丁年未婚ノ遺子 三. 組合員ノ死亡當時ヨリ引續キ其家ニ在ル父．母．祖父．祖母	一. 配偶者（夫ノ場合ハ不具癈疾老衰者ニ限ル） 二. 組合員ノ家ニ在ル未丁年未婚ノ遺子 三. 組合員ノ死亡當時ヨリ引續キ其家ニ在ル父．母．祖父．祖母			一. 配偶者 二. 組合員ノ未丁未年婚ノ遺子 三. 直系尊屬（父母．祖父．祖母）			
一. 公傷病．死亡シタルトキ（公傷一時金ノ內） 給額　給料三年分 二. 死亡シタルトキ（死亡給與金）傷病ノ公私ヲ問ハズ 給額　（加入年數ニヨリ）給料一ケ月分乃至十六ケ月分 三. 公傷．癈疾．勤勞年金受領者ニシテ受領開始ノ日ヨリ滿十ケ年以內ニ死亡シタルトキ 給額　年金ノ十ケ年分相當額ヨリ既給年金額ヲ控除シタル金額ノ二分ノ一 四. 遺族年金又ハ遺族一時金受領者ナキトキハ組合ハ年金ニ在リテハ其二年分以內一時金ニ在リテハ其三分ノ二以內死亡者ノ爲ニ處分スルコトヲ得	一. 公傷病ニテ死亡シタルトキ（最初遺族年金ヲ受クベキモノニ限リ之ヲ給ス） 給額　給料三ケ月分 二. 私傷病ニテ死亡シタルトキ 給額　加入二十年以上脫退年金額ノ六年分．加入二十年未滿脫退一時金額 三. 障害脫退年金受領者脫退ノ日ヨリ六年內ニ死亡シ又ハ受領權利確定シ未ダ給付ヲ受クルニ至ラズ死亡シタルトキ 給額　年金六年分．既給年金額控除 四. 組合員死亡ノ日ヨリ六年內ニ遺族年金受領者ナキトキハ該年金六年分相當スル金額ヨリ既ニ給付シタル年金額ヲ控除シタル殘額ヲ給ス死亡當時受領者ナキトキ同シ	死亡シタルトキ（死亡給與金）（傷病ノ公私ヲ問ハズ） 給額　月俸六ケ月分	一. 公傷病ニテ死亡シタルトキ 給額　給料九百日分 二. 死亡シタルトキ 給額　給料九十日分 三. 選擇ニ依ル年金受領者脫退ノ日ヨリ四年以內ニ死亡シタルトキハ年金額ノ四倍ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ既ニ給シタル年金額ヲ控除ス	一. 私傷病ニテ死亡シタルトキ 給額　給料六ケ月分乃至一年六ケ月分 二. 公傷年金受領者退職ノ日ヨリ七年內ニ死亡シ又ハ受領權利確定シ未ダ年金ノ支給ヲ受ケズ在職中死亡シタルトキ 給額　年金七年分．既給年金額控除 三. 退職年金受領者退職ノ日ヨリ六年內ニ死亡シ又ハ受領權利確定シ未ダ年金ノ支給ヲ受ケズ在職中死亡シタルトキ 給額　年金六年分．既給年金額控除 四. 年金及一時金受領者ナキトキハ年金ハ三年分．一時金ハ其ノ三分ノ二ヲ死亡者ノ爲ニ處分スルコトヲ得	一. 公傷病ニテ死亡シタルトキ 給額　給料二年六ケ月分乃至三年分 二. 死亡シタルトキ 給額　給料六ケ月分以上 三. 癈疾（公傷）年金受領者．脫退後五年以內ニ死亡シ又ハ脫退後年金ノ給與ヲ受クルニ至ラズシテ死亡シタルトキ 給額　年金五年分．既給年金額控除 四. 退職年金受領者脫退後七年以內ニ死亡シ又ハ脫退後年金ノ給與ヲ受クルニ至ラズシタ死亡シタルトキ 給額　年金七年分．既給年金額控除	一. 公傷病ニテ死亡シタルトキ 給額　給料二年分 二. 死亡シタルトキ 給額　給料二ケ月分乃至一年分	
一. 配偶者　六. 死亡者ノ扶養ヲ受ケタル者 二. 直系卑屬 三. 直系尊屬　七. 他家ニ在ル直系卑屬 四. 戶主 五. 兄弟姉妹　八. 他家ニ在ル直系尊屬	一. 配偶者　六. 他家ニ在ル直系卑屬 二. 直系卑屬 三. 直系尊屬　七. 他家ニ在ル直系尊屬 四. 戶主 五. 兄弟姉妹　八. 死亡者ノ扶養ヲ受ケタル者	一. 配偶者 二. 直系卑屬 三. 直系尊屬 四. 戶主 五. 兄弟姉妹	一. 配偶者　六. 戶主又ハ家督相續人 二. 子 三. 父母　七. 兄弟姉妹 四. 孫 五. 祖父祖母	一. 直系卑屬 二. 配偶者 三. 直系尊屬	一. 配偶者　六. 他家ニ在ル直系卑屬 二. 直系卑屬　七. 他家ニ在ル直系尊屬 三. 直系尊屬　八. 他家ニ在ル兄弟姉妹 四. 兄弟姉妹　九. 扶養ヲ受ケタル者 五. 戶主	一. 配偶者 二. 直系卑屬 三. 直系尊屬	
一. 公傷病ニテ死亡ノ場合 給額　給料二ケ月分 二. 其他ノ場合 給額　給料一ケ月分 受領者．葬祭ヲ營ミタル者	一. 公傷病ニテ死亡ノ場合 給額　給料二ケ月分 二. 私傷病ニテ死亡ノ場合 給額　給料一ケ月分 受領者．葬祭ヲ營ミタル者		救濟金受領者ナク葬祭ヲ行フノ必要アルトキ 給額　救濟金額ヲ限度トシ六十圓以內ノ實費	一. 公傷病ニテ死亡ノ場合 給額　給料三ケ月分 二. 私傷病ニテ死亡ノ場合 給額　給料一ケ月分 受領者．葬祭執行者			

官營共濟組

組合種別	別	國有鐵道共濟組合	海軍共濟組合	遞信部内職員共濟組合	專賣局現業員共濟組合	製鐵所共濟組合	造幣局共濟組合	林野現業員共濟組合
癈疾給付	癈疾年金	私傷病ニテ終身自用ヲ辨ズルコト能ハザルトキ（加入十年以上ノモノ） 給額　給料五ヶ月分乃至六ヶ月分				私傷病ニテ終身自用ヲ辨ズルコト能ハザルトキ（加入十年以上ノ者） 給額　給料五ヶ月分乃至六ヶ月分		
		私傷病ニテ終身業務ニ就クコト能ハザルトキ（加入十年以上ノモノ） 給額　給料三ヶ月乃至四ヶ月分				私傷病ニテ終身勞務ニ服スルコト能ハザルトキ（加入十年以上ノ者） 給額　給料三ヶ月分乃至四ヶ月分		
	特症金	職業的疾患又ハ肺結核ニ罹リ業務ニ堪ヘザル場合．一年經過者 給額　給料三ヶ月分乃至一年分	私傷病ニテ肺結核ニ罹リ雇傭ヲ解カタレルトキ加入六ヶ月以上經過者 給額　給料六十日分以上		私傷病ニテ結核性疾患ニ因リ解職セラレタルトキ加入一年經過者 給額　給料三十日分一年ヲ增ス毎ニ十日分ヲ加算ス	私傷病ニテ終身自用ヲ辨ズルコト能ハザルトキ（加入十年未滿者） 給額　給料三ヶ月分乃至一ヶ年分	私傷病ニテ肺結核其他ノ傳染性疾患ニ因リ解職加入一年以上者 給額　給料二ヶ月分．一年ヲ增ス毎ニ五日分加算	
						私傷病ニテ終身勞務ニ服スルコト能ハザルトキ（加入十年未滿者） 給額　給料二ヶ月分乃至十一ヶ月分		
退職給付	退職年金	加入後十五年ヲ經過シテ脫退シタルトキ（死亡脫退除外） 給額　十五年經過年額四分ノ一 二十年經過年額三分ノ一．十五年又ハ二十年經過後一年經過毎ニ給料年額百分ノ一加算	加入後二十年以上經過．年齡五十年ヲ超エ脫退 給額　二十年以上二十一年未滿給料九十日分．二十一年以上二十年超過年數一年毎ニ給料三日分加算	加入後二十年以上經過．年齡四十才ヲ超エ脫退 給額　二十年經過者平均給料年額三分ノ一相當額．二十年經過後一年ヲ增ス毎ニ平均給料年額百分ノ一加算		加入後二十年經過年齡五十才ヲ超エ脫退シタルトキ（死亡脫退除外） 給額　給料三月分．二十年ヲ超エ一年增ス毎ニ給料三日分加算	加入後二十年以上ニシテ傷痍疾病ノ爲從來ノ勞務ニ從フ不能又ハ加入後二十年以上ニテ年齡四十五年ニテ脫退シタルトキ 給額　給料七十日分乃至二百七十八日分	
	退職一時金	年金受領ニ至ラズ脫退シタルトキ（死亡脫退除外） 給額　給料十日分．六ヶ月經過毎ニ給料十日分加算但シ最低掛金額ヲ下ラズ自己便宜．其十分ノ八	一．加入後二年以上十年未滿ニテ脫退ノトキ但特別ノ事由アル時ハ二年未滿ニテモ可（脫退救濟金） 給額　掛金總額 自己便宜其十分ノ八 二．加入後十年以上ニテ脫退ノトキ（勤續救濟金） 給額　給料百五十日分以上．年數ニ依リ加算ス	一．脫退シタルトキ（脫退給與金） 給額　約掛金額ニ年五分ノ利率ヲ加算シタル額又ハ其十分七以上 二．加入後三年以上經過脫退（勤續給與金） 給額　掛金總額ニ一定率加算シタル額	一．死亡シ又ハ脫退シタルトキ 給額　掛金總額（年數ニ依リ加算）非現業員掛金總額ノ百分ノ九十 二．加入後五年經過シタル現業員 給額　掛金總額ノ百分ノ二百七十ニ第六年ノ掛金ノ百分ノ二百二十ヲ加算七年以内，七年以上ハ前例ニ依リ加算率ハ一年以内ヲ增ス毎ニ百分ノ五ヲ加フ	事業上ノ都合．兵役召集傷病ニ因リ退職脫退シタルトキ又ハ加入一年以上ニテ脫退シタルトキ 給額　掛金總額ノ三分ノ一以上總額ニ一定ノ率ヲ乘ジタル額	年金ヲ受クルニ至ラズ脫退シタルトキ 給額　掛金總額ニ給與乘數ヲ乘ジタル額又ハ其ノ十分ノ八	一．脫退シタルトキ（脫退給與金） 給額　加入各年ノ給料千分ノ二十二ニ相當額ニ付年五分ノ重利計算ニ依ル元利合計額 二．三年以上經過脫退シタルトキ（年功給與金） 給額　加入各年ノ給料ノ千分ノ六相當額ニ付年五分ノ重利計算ニ依ル元利合計額
疾病給付	醫療金	私傷病ニテ醫療ヲ受ケタル場合 給額　醫療費用ノ半額又ハ十分ノ七						私傷病ニテ六日以上勞務ニ服スル能ハザルトキ重過失．陸海軍召集中傷病除外 給額　療養ノ實費
	休養金	醫療金ヲ受クルモノ休業シ給料支給ヲ受ケザル場合休業五日目ヨリ給ス 給額　給料ノ半額相當額	私傷病ニテ承認ヲ受ケ休業シ給料ヲ受ケザルトキ休業八日目ヨリ給ス一事業年度六十三日ヲ限度トス 給額　一日ニ付給料半日分相當額	私傷病ニテ加入一年以上經過シタル者引續十四日以上休業シ給料ヲ受ケズ休業十四日ヲ超エタル日ヨリ給ス一事業年度六十日限度トス 給額　一日ニ付給料日額二分ノ一	私傷病ニテ六日以上休業シ加入一年以上經過シタルトキ．六日目ヨリ給ス一回三十日間一事業年度六十日限度トス 給額　一日ニ付日給額ノ二分ノ一	私傷病ニテ八日以上休業シ給料ヲ受ザル場合休業八日目ヨリ給ス事一業年度九十日乃至二百四十日間ヲ限度トス 給額　一日ニ付給料日額二分ノ一		私傷病ニテ勞務ニ服スルコト能ハズ給料ヲ受ケザルトキ五日目ヨリ給ス休業ノ日ヨリ六十日ヲ超エズ一ケ年ヲ通ジテ九十日ヲ限度トス 給額　給料ヲ受ケザル期間給料ノ三分ノ一
	産婦金	分娩ノ爲休業給料ノ支給ヲ受ケザル場合四十二日間ヲ限度トス 給額　給料ノ半額相當額			分娩前後就業不能加入六ヶ月經過者四十二日間ヲ限度トス 給額　一日ニ付日給額ノ二分ノ一	分娩ノ爲休業シ給料ヲ受ケザルトキ四十二日間ヲ限度トス 給額　一日ニ付給料日額二分ノ一		
災厄給付	見舞金	水火震災其他非常災害ニ罹リタルトキ 給額　給料二ヶ月分以内		水火．震災其ノ他非常ノ災害ニ罹リタルトキ 給額　給料二ヶ月分以内		水火震災其他非常ノ災厄ニ罹リ財産ニ著シキ損失ヲ受ケタルトキ 給額　給料二ヶ月分以内	水火震災其他非常ノ災厄ニ罹リ財産ニ著シキ損害ヲ受ケタルトキ 給額　給料二ヶ月分以内	
	家族見舞金	現ニ扶養同居ノ家族一ケ月以上休養シ醫療ヲ受クルトキ一事業年度一回トス 給額　給料十日分以内						
	家族弔慰金	現ニ扶養スル同居ノ家族死亡ノトキ 給額　給料十日分以内				配偶者同居ノ直系尊屬卑屬死亡ノトキ 給額　給料十日分以内		
其他	公傷病療養	職員療養令ニ依リ省費ニテ實費支辨	療養令ニ依リ省費ニテ實費支辨	給額　療養ニ必要ナル額	給額　療養實費	所費ニテ實費支辨	給額　療養實費	給額　療養實費 ○休業扶助料 公傷病療養ノ爲勞務ニ服スル不能給料ヲ受ケザル者 給額休業三ケ月以内一日ニ付給料日額二分ノ一 給額休業三ケ月超過給料日額三分ノ一 ○一時扶助料　公傷病療養開始三年經過者 給額給料日額百七十日分以上三百日分以下

合　比　較　表（其六）　（大正十四年三月現在）

印刷局共濟組合	土木事業從事員共濟組合	警察共濟組合	陸軍共濟組合	臺灣鐵道職員共濟組合	臺灣遞信局及通信官署職員共濟組合	樺太廳鐵道及郵便局現業員共濟組合	備考
私傷病ニテ終身自用ヲ辨ズルコト能ハサルトキ加入十年經過自己ノ重大過失ニ非ラザルトキ 給額　給料六ヶ月分乃至七ヶ月分							
私傷病ニテ終身從來ノ業務ニ就クコト能ハス加入十年經過シ自己ノ重大過失ニ非ラザルトキ 給額　給料三ヶ月分乃至五ヶ月分							
私傷病ニテ終身自用ヲ辨ズルコト能ハザルトキ加入十年未滿ニテ自己ノ重過失ニ非ラザルトキ 給額　給料六ヶ月分乃至三年分	私傷病ニテ終身業務ニ就クコト能ハザル程度以上自用ヲ辨ズルコト不能程度ニテ加入一年經過重過失ナキトキ 給額　給料三ヶ月分乃至八ヶ月分	私傷病ニテ自用ヲ辨ジ得ザル程度、職務ニ堪ヘザル程度又ハ肺結核喉頭結核癩病ニ因リ退職シタルトキ 給額　月俸六ヶ月分	私傷病ニテ加入六ヶ月以上經過シ肺結核ニ罹リ雇傭ヲ解カレタルトキ 給額　給料七十五日分				
私傷病ニテ終身從來ノ業務ニ就クコト能ハス加入十年未滿ニテ自己ノ重過失ニ非ラザルトキ 給額　給料三ヶ月分乃至二年分	私傷病ニテ肺結核其他傳染性疾患ニ因リ俾職脫退シタルトキ但シ一年經過者ニ限ル 給額　給料三ヶ月分						
加入後十五年經過脫退シタルトキ（勤勞年金） 給額　給料年額三分ノ一、十五年以上滿一年ヲ增ス每ニ年額百分ノ一加算ス	加入後二十年以上、年齡五十才ニ達シ脫退シタルトキ但シ事業上ノ都合又ハ病氣脫退ハ年齡ニ拘ラズ 給額　給料三ヶ月分、二十年ヲ超エ一年ヲ增ス每ニ給料三日分ヲ加算ス			加入後十年經過脫退シタルトキ（死亡脫退除外） 給額　給料年額四分ノ一、十年經過後ハ加入一年經過每ニ給料年額百分ノ一ヲ加算ス	加入後二十年以上ヲ經過シ年齡四十才ヲ超エ脫退シタルトキ 給額　平均給料年額三分ノ一、二十年經過後ハ一年ヲ增ス每ニ平均給料年額百分ノ一ヲ加算ス		
一、脫退シタルトキ、六ケ月未滿自己便宜除外（脫退給與金） 給額　掛金額ニ年五分ノ利率加算額 二、加入後滿一ケ年經過病氣脫退シタルトキ（勤勞一時金） 給額　給料半ケ月分乃至十五ケ月分	年金ヲ受クルニ至ラズ脫退シタルトキ 給額 一、甲種組合員、掛金總額ニ給付乘數ヲ乘シタル金額 二、乙種組合員、掛金總額ノ九分ノ五ニ給付乘數ヲ乘シタル額自己便宜ノ場合ハ前項ノ十分ノ八	脫退シタルトキ 給額 一、五年未滿、掛金總額十分ノ四 二、五年以上十年未滿、掛金總額十分ノ六 三、十年以上、掛金總額十分ノ八	一、脫退シタルトキ（脫退救濟金） 給額　掛金總額又ハ五年以上ノモノニハ一定ノ率ヲ乘シタル額 二、加入後十年以上勤續脫退シタルトキ（勤續救濟金） 給額　給料五十日分乃至七十日分	年金ヲ受クルニ至ラズ脫退シタルトキ（死亡脫退除外） 給額　給料十日分、六ケ月經過每ニ給料十日分加算但シ最低掛金額ヲ下ラズ 自己便宜其ノ十分ノ八	一、六ケ月以上經過脫退シタルトキ（脫退給與金） 給額　掛金額ニ年五分ノ利率加算額又ハ其ノ十分ノ八 二、加入三年以上經過脫退シタルトキ（勤續給與金） 給額　掛金總額ニ一定率加算シタル額	一、脫退シタルトキ（脫退給與金） 給額　掛金總額ニ一定ノ率ヲ乘シタル額 自己便宜十分ノ七 二、加入後五年以上經過脫退シタルトキ（勤續給與金） 給額　脫退給與金算出額ノ十分ノ一又ハ十分ノ五	
		私傷病ニテ醫療ヲ受ケタルトキ 給額　費用ノ十分ノ八					
	私傷病ニテ休業八日以上給料ヲ受ケズ故意重過失ナキトキ八日目ヨリ給ス一事業年度九十日ヲ限度トス 給額　一日ニ付給料日額ノ二分ノ一	私傷病ニテ療養ノ爲八日以上休業ヲ承認セラレ、自己ノ重過失ナキトキ七日ヲ超エタル休業日數中五十日間ヲ限度トス 給額　一日ニ付給料半日分相當額			私傷病ニテ加入一年以上經過シタル者療養ノ爲引續キ十四日以上勤務スルコト能ハズ給料ヲ受ケザルトキ十四日目ヨリ給ス、一回三十日、一事業年度六十日 給額　一日ニ付給料日額二分ノ一	私傷病ニテ加入一年ヲ經過シタル者療養ノ爲十四日以上休養シ給料ヲ受ケザルトキ十四日ヲ超エタルヨリ給ス但シ一事業年度六十日ヲ限ル 給額　給料半額	
	分娩ノ爲休業シ給料ヲ受ケザルトキ分娩前後四十二日間ヲ限度トス 給額　一日ニ付給料日額二分ノ一		分娩ノ爲休業承認セラレタルトキ前後四十二日間ヲ限度トス 給額　一日ニ付給料半日分相當額				
不慮ノ災害ニ罹リタルトキ 給額　給料三ヶ月分以內	水火震災非常ノ災厄ニ罹リ損害ヲ受ケタルトキ 給額　給料半ケ月乃至二ケ月分	非常災害ニ罹リタルトキ 給額　月俸二ケ月分以內又ハ三ケ月分	住家ノ火災、流失、倒壞ニテ家財ノ大部ヲ失フトキ 給額　二十圓以內		水火震災其他非常災害ニ罹リタルトキ 給額　給料二ケ月分	天災其他非常ノ災害ニ罹リタルトキ 給額　給料二ケ月分以內	
配偶者、直系卑屬尊屬死亡シタルトキ 給額　給料十日分以內		配偶者、現ニ扶養ノ直系尊卑屬死亡ノトキ 給額　月俸二分ノ一					
給額　療養ニ要スル相當額	給額　醫療ニ要シタル額	公傷病ニ對シテハ明治三十四年勅令第一四九號ニ依リ官費支辨	給額　療治料實費	給額　療養ニ要スル相當額	給額　療養ニ必要ナル額	給額　治療ニ必要ナル實費	
婚姻給與金 婚姻シタルトキ 給額　給料二ケ月分			療養救濟金 公傷病療治ヲ要シ休業シタルトキ但シ自己ノ重過失ナキトキニ限ル 給額　一日ニ付給料十分ノ八				

給付比較表（其一）

共済組合規則、健康保険法
工場法、傭人扶助令、恩給法

種別	國有鐵道共濟組合規則	健康保險法	工場法（施行令）	傭人扶助令	恩給法	備考
疾病給付 醫療	私傷病　醫療實費ノ半額ヲ給ス但シ所定ノ傳染性疾患及職業的疾患ハ十分ノ七 給付期間制限ナシ 公傷病　給付セス（但シ鐵道部内職員療養規則ニ依リ省費ヲ以テ治療ス）	私傷病　組合ニテ全額ヲ負擔ス但シ一年百八十日ヲ限度トス 公傷病　組合ニテ全額ヲ負擔ス但シ同一傷病ニ就テハ百八十日ヲ限度トス（百八十日以後ノ療養ハ工場法施行令ニ依リ事業主負擔ス）	私傷病　給付セズ 公傷病　全額ヲ事業主ニ於テ負擔ス但シ三年後ハ賃金百七十日以上ニ相當スル打切扶助料ヲ給シ廢療スルコトヲ得	私傷病　給付セス 公傷病　全額ヲ支給ス但シ三年後ハ賃金百七十日以上三百日分以下ノ一時扶助料ヲ給シ廢療スルコトヲ得		健康保險法ニ限リ被保險者資格喪失後ト雖モ所定ノ期間各給付ヲナスモ共濟組合ハ之ヲ認メズ 重大ナル過失ニ基ク公傷病者ニ對シテハ工場法、傭人扶助令ハ給付ヲナサザルモ共濟組合ハ支給ス 尙官吏ノ公傷病ニ就テハ明治二十五年勅令八十號ニ依リ官吏療治料支給ノ途アリ
休養金	私傷病　休業加療ノ爲メ給料ヲ受ケザル場合ニ於テ休業五日目ヨリ給料ノ半額ヲ給ス） 給付期間制限ナシ 公傷病　給付セズ（但シ鐵道省給料支給規程ニ依リ休業中省費ヲ以テ全額ヲ給ス	私傷病　休業加療ノタメ給料ヲ受ケザル場合ニ於テ休業四日目ヨリ報酬日額十分ノ六ヲ給ス但シ一年百八十日ヲ限度トス 公傷病　休業加療ノタメ給料ヲ受ケザル場合ニ於テ休業當日ヨリ報酬日額十分ノ六ヲ給ス但シ同一傷病ニ就テハ百八十日ヲ限度トス（百八十日以後ハ工場法施行令ニ依リ休業扶助料ヲ給ス）	私傷病　給付セス 公傷病　休業加療中給料ヲ受ケザル場合ニ於テ賃金ノ二分ノ一以上ヲ支給ス但シ其支給引續キ三ケ月ニ渉ル時ハ其後ノ支給額ヲ三分ノ一迄ニ減スルコトヲ得、三年後ハ賃金百七十日以上ニ相當スル打切扶助料ヲ給シ（醫療ノ項參照）打切ルコトヲ得	私傷病　支給セズ 公傷病　休業加療ノタメ給料ヲ受ケザル場合ニ於テ休業三ケ月以内ハ一日ニツキ日給ノ二分ノ一休業三ケ月ヲ超ユル時ハ一日ニ付日給ノ三分ノ一ヲ給ス 但シ三年後ハ賃金百七十日分以上三百日分以下ノ一時扶助料ヲ給シ（醫療ノ項參照）打切ルコトヲ得		
産婦金	分娩ノタメ休業中給料ノ支給ヲ受ケザルトキハ分娩前後ヲ通シテ四十二日間ヲ限リ給料ノ半額ヲ給ス但休養金ヲ受クルトキハ此ノ限ニ在ラズ	分娩費トシテ二十圓及分娩ノ爲メ休業中（期間未定）報酬日額ノ十分ノ六ニ相當スル出產手當金ヲ給ス但シ相當期間被保險者タルモノニ限ル				

考

法ニ限リ被保險者資格喪
モ所定ノ期間各給付ヲナ
組合ハ之ヲ認メズ
過失ニ基ク公傷病者ニ對
場法，傭人扶助令ハ給付
ルモ共濟組合ハ支給ス
公傷病ニ就テハ明治二十
八十號ニ依リ官吏療治料
アリ

給付比較表（其二）

共濟組合規則、健康保險法
工場法、傭人扶助令、恩給法

種別	國有鐵道共濟組合規則	健康保險法	工場法（施行令）	傭人扶助令	恩給法	備考
公傷給付 （一）終身自用ヲ辨ズル能ハザル者	給料七箇月分乃至九箇月分ニ相當スル年金		賃金百七十日分以上ノ一時金	賃金百七十日分以上三百日分以下ノ一時金	恩給法ト共濟組合トハ査定標準ヲ異ニスルヲ以テ比較スベカラザルモ强ヒテ比較スレバ次ノ如シ（但判任官ノ分ヲ記載ス） 普通恩給ニ六百圓乃至千二百九十六圓以内ヲ加ヘタル年金	恩給法及工場法傭人扶助令ハ重大ナル過失ニ基因スル傷病ニ對シテハ給付ヲナサザルモ共濟組合ハ給付ス
（二）終身業務ニ就クコト能ハザル者	給料四箇月分乃至六箇月分ニ相當スル年金		賃金百五十日分以上ノ一時金	賃金百五十日分以上二百五十日分以下ノ一時金	普通恩給ニ三百八十四圓乃至五百七十六圓ヲ加ヘタル年金	
（三）身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ズ因テ退職退官シタル者	給料八箇月分乃至一年六箇月分ニ相當スル一時金		賃金百日分以上ノ一時金	賃金百日分以上二百日分以下ノ一時金	普通恩給ニ二百四十圓乃至五百七十六圓ヲ加ヘタル年金	
（四）身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ザルモ引續キ職務ニ服スル者	給料一箇月分乃至六箇月分ニ相當スル一時金		賃金三十日分以上ノ一時金	賃金三十日分以上百二十日分以下ノ一時金		
癈疾給付 **癈疾年金** （一）終身自用ヲ辨ズル能ハザル者	給料五箇月分乃至六箇月分ニ相當スル年金					
（二）終身業務ニ服スル能ハザル者	給料三箇月分乃至四箇月分ニ相當スル年金					
特症金 （職業的疾患又ハ肺結核ニ罹リ退官退職セル者）	加入一年以上給料三箇月分 〃三年　〃六箇月分 〃五年　〃九箇月分 〃七年　〃一年分 } 一時金					

共濟組合規則、健康保險法
工場法、傭人扶助令、恩給法

給付比較表（其三）

種別	國有鐵道共濟組合規則	健康保險法	工場法（施行令）	傭人扶助令	恩給法	備考
退職給付 退職年金 （加入十五年以上ノ者ニ給ス）	加入十五年ヲ超ユル者ハ給料三箇月分又加入二十年ヲ超ユル者ハ給料四箇月分ニ相當スル年金ヲ給シ爾後各一年ヲ增ス毎ニ給料百分ノ一ヲ加給ス				十五年以上在職シテ退職シタル者ハ給料年額ノ三分ノ一ニ相當スル年金ヲ給ス爾後一年ヲ增ス毎ニ給料年額ノ百五十分ノ一ヲ加給ス	恩給法ニアリテハ機關車乘務員ニシテ一年以上業務ニ從事シタルトキハ在職一月ヲ一月半トシテ計算スルモ共濟組合ニハ斯ル規定ナシ
退職一時金 （加入十五年未滿ノ者ニ給ス）	加入六箇月以上ノ者ハ給料十日分トシ爾後六箇月ヲ經過スル毎ニ給料十日分ヲ加算ス但シ自己ノ便宜ニ因リ脫退シタル者ハ其ノ八割トス				在職一年以上ノ者ハ給料一箇月分爾後一年ヲ增ス毎ニ一箇月分宛ヲ加給ス自己便宜ニ因ル退職ノ場合ト雖モ減額セズ	
遺族給付 遺族年金	公傷病ニ因ル死亡ノ場合 加入十五年未滿ノ者給料四箇月分ニ相當スル年金加入十五年箇以上ノ者ハ五箇月分ニ相當スル年金				（一）戰鬪又ハ之ニ準ズベキ公務上死亡ハ普通恩給ノ全額 （二）公務上ノ死亡ハ普通恩給ノ八割 （三）公務以外ノ死亡ハ普通恩給ノ五割	恩給法．工場法．傭人扶助令ニ在リテハ重過失ニ基ク死亡者ニ對シテハ遺族扶助料ヲ給セザルモ共濟組合ニ在リテハ之ヲ支給ス
遺族一時金	私傷病ニ因ル死亡ノ場合 加入一年ヲ經過セザル者給料六箇月分 加入一年ヲ經過スル者給料九箇月分 〃 三年 〃 一年分 〃 六年 〃 一年三箇月分 〃 十年 〃 一年六箇月分		公傷病ニ因ル死亡ノ場合 賃金百七十日分以上ノ遺族扶助料 私傷病ニ因ル死亡ノ場合 ナシ	公傷病ニ因ル死亡ノ場合 賃金百七十日分以上三百日分以下ノ遺族扶助料 私傷病ニ因ル死亡ノ場合 ナシ	十五年未滿ノ在職者死亡ノ場合（但シ私傷病ノ場合）在職一年以上ノモノハ給料一箇月分爾後一年ヲ增ス毎ニ一箇月分ヲ加給ス	
葬祭金	公傷 給料三箇月分ノ一時金 私傷 給料一箇月分ノ一時金	報酬日額二十日分（但シ報酬日額二十日分ガ二十圓ニ達セザルトキハ二十圓ヲ給ス）	十圓以上ノ葬祭料	十圓以上三十圓以下ノ葬祭料		
災厄給付 災害見舞金	水火震災等ニ因リ物的損害ヲ蒙リタルトキ給料二箇月分以內ノ一時金					

共濟組合規則、健康保險法
工場法、傭人扶助令、恩給法

給付比較表（其四）

種別	國有鐵道共濟組合規則	健康保險法	工場法（施行令）	傭人扶助料	恩給法	備考
家族見舞金	家族傷病ニ因リ一箇月以上休養シタルトキ 給料十日分以内ノ一時金					
家族弔慰金	家族死亡シタルトキ 給料十日分以内ノ一時金					
掛金	甲種 給料月額ノ百分ノ六 乙種 給料月額ノ百分ノ十一但シ給料月額ノ百分ノ七ヲ選擇スルコトヲ得（此ノ者ニ對シテハ癈疾給付退職給付及遺族一時金ヲ限リ支給ス）	報酬日額ノ百分ノ三以内（但任意加入者ニハ此ノ制限ナシ）			俸給ノ百分ノ一	任意加入者トハ被保險資格喪失者中喪失ノ日前一年内ニ於テ百八十日以上被保險者タリシ者又ハ喪失ノ際引續キ六十日以上被保險者タリシ者ニシテ勅令所定期日内ニ申請シテ引續キ被保險者トナリタル者ヲ指ス
再就職ノ場合前後期間通算ノ有無	通算セス				一時恩給ノ場合以外ハ通算ス	
給付請求ノ資格又ハ權利ノ喪失及制限 (一)本人ノ場合	死亡シタルトキ 犯罪ニヨリ死亡シタルトキ 懲戒處分又ハ刑事裁判ニ因リ官職ヲ免セラレタルトキハ給付ノ全部又ハ一部ノ權利ヲ喪失スルコトアリ				懲戒懲罰等ノ處分ニ因リ退職シタルトキ又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其引續キタル在職年ニツキ恩給ヲ受クル資格ヲ喪失ス 死亡シタルトキ．死刑又ハ無期若シクハ六年以上ノ懲役若シクハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ．國籍ヲ失ヒタルトキハ恩給ヲ受クル權利ヲ喪失ス 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ刑ノ執行中恩給ヲ停止ス	

共濟組合規則、健康保險法
工場法、傭人扶助令、恩給法

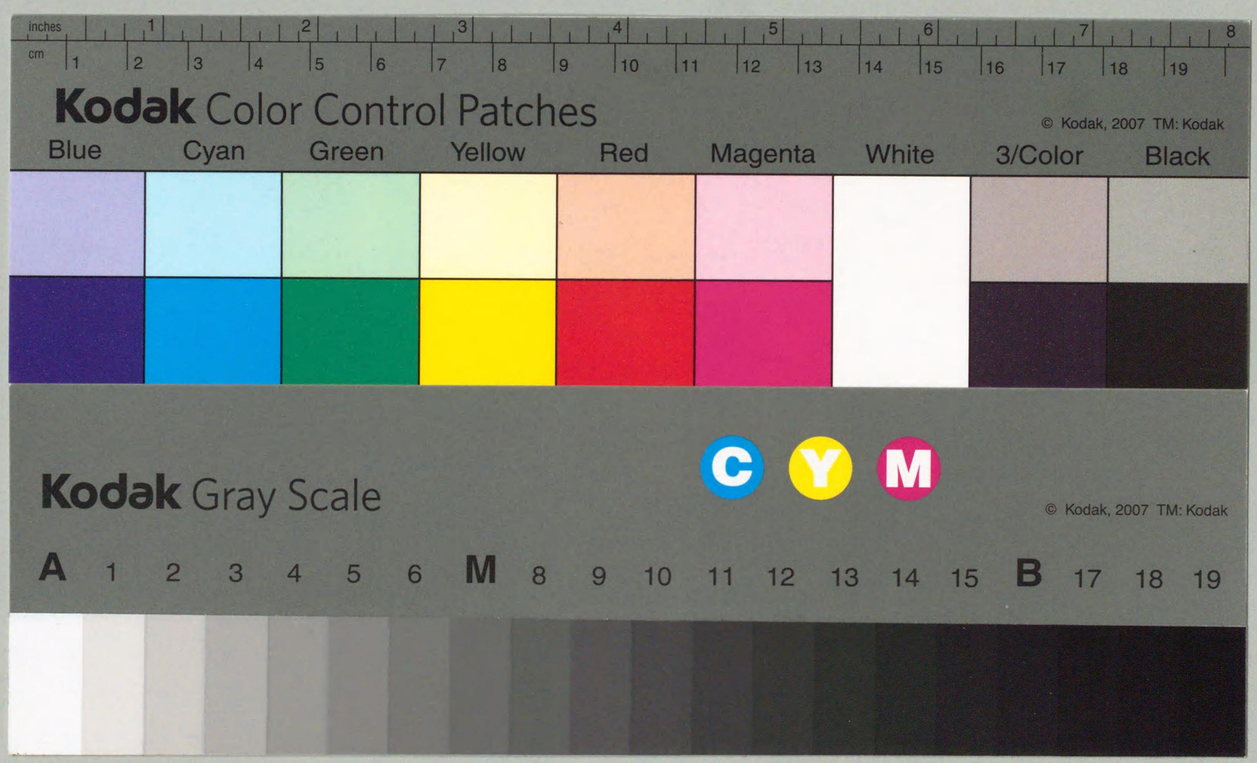
給付比較表（其五）

種別	國有鐵道共濟組合規則	健康保險法	工場法（施行令）	傭人扶助令	恩給法	備考
(二)遺族ノ場合	遺族死亡シタルトキ 妻.夫又ハ子ガ婚姻シタルトキ 未成年ノ子ガ成年トナリタルトキ 遺族ガ其ノ家ヲ去リタルトキ(妻.子ガ分家シタルトキハコノ限ニ在ラズ)ハ年金權ヲ喪失ス				次ノ場合ハ年金權ヲ喪失ス 遺族ガ死亡シタルトキ 妻.夫.子ガ婚姻シタルトキ 未成年ノ子ガ成年トナリタルトキ 遺族ガ其ノ家ヲ去リタルトキ(妻.子ガ分家シタルトキハコノ限ニ在ラズ) 不具癈疾ニシテ生活資料ヲ得ル途ナク且ツ扶養者無キ夫又ハ成年ノ子ニ付キ其ノ事情止ミタルトキ 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタルトキハ刑ノ執行中給付ヲ停止ス	
年金及一時金受領者死亡ニ對スル救濟	公傷.疾病.退職年金ヲ受クベキモノニシテ受給前死亡シタル者又ハ年金ヲ受クルモ六年(公傷ハ七年)以内ニ死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ對シ年金ノ六年分(公傷ハ七年)ヨリ既給額ヲ控除シタル殘額ヲ一時ニ支給ス 遺族年金又ハ遺族一時金ヲ受クル者ナキトキ又ハ之ヲ受クルモ遺族權利ヲ喪失シ他ニ受クル者ナキトキハ年金ノ三年分又ハ一時金ノ三分ノ二ヨリ既給額ヲ控除シタル殘額ヲ死亡者ノタメ處分スルコトヲ得				年金者死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ年金(扶助料)ヲ給ス 公傷病ニ因ル場合ハ普通恩給ノ八割乃至全額其ノ他ノ場合ハ普通恩給ノ五割 遺族ナキトキハ兄弟姉妹中未成年又ハ不具癈疾ニシテ生活資料ヲ得ル途無ク且ツ扶養者ナキ者ニ對シ扶助料年額ノ一年分乃至五年分ニ相當スル一時扶助料ヲ支給ス	
年金前渡制	公傷.癈疾.退職年金受領者ヘ脱退ノ日ヨリ五年以内ニ請求シタルトキハ事業資金ノ必要アリト認メラレタル場合ニ限リ年金五年分ヨリ既ニ給シタル年金額ヲ控除シタル殘額ニ付複利年七分ノ割引ヲ以テ一時ニ給スルコトヲ得					

考

D4 E98

YQ2
1047
82W04900


inches
cm
Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black
Kodak Gray Scale
C
Y
M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19